

令和 4 年度

# 事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

社会福祉法人雲南市社会福祉協議会

## 【 経営理念 】

市民誰もが 自分らしく輝き 支え合う  
福祉のふるさとづくり

## 【 経営ビジョン 】

経営理念の実現に向けて

【共感】 共感の輪を広げ  
笑顔の福祉活動を育む社協を目指します

【共創】 思いをつないで  
地域社会と福祉を創る社協を目指します

【共生】 自分らしく輝く  
ふだんの暮らしを守る社協を目指します

私たちは、三つの社協らしさで地域社会に貢献します

(中期経営計画より)

## ■ 事業実施概要

雲南市社会福祉協議会（以下「本会」という）では、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という）に対して引き続き「新型コロナ等対策本部」会議（23回開催）により、特に緊急課題については法人内での速やかな意思決定と対策実践を図りました。

中でも、在宅福祉サービスの提供にあたっては、新型コロナ感染拡大防止のため一部事業所を休止するなど、厳しい環境の中での事業展開となりましたが、雲南保健所との定期的な情報交換、指導により的確な対応に努めました。

本会各事業部門では、まず法人運営事業部門において、令和5年度の本会組織体制の整備、強化を図るため、職員採用試験を実施しました。結果、保健師・社会福祉士等5名の専門職採用を内定いたしました。

次に、5月20日市内5つのライオンズクラブと本会との間で「災害時におけるボランティア支援に関する協定」を締結いたしました。協定では、「雲南市災害ボランティアセンター」の設置・運営への協力や、被災地でのボランティア活動のための資材提供、運送手段の手配・提供など災害時、そして平時の情報交換を行うこと等を取り決め、11月28日には「ライオンズアラート委員会」において冬場の災害等への対応など意見交換を行いました。

地域福祉事業部門では、まず生活支援・相談センターにおいて、申請期限が9月30日まで延長された生活福祉資金特例貸付制度を引き続き担当、貸付件数は41件の実績となりました。さらに、市内の企業、団体から寄付された食料品を提供するフードバンク事業において、生活困窮世帯25世帯51人（前年実績13世帯16人）への支援をいたしました。また、「新型コロナ対策生活支援事業」として、自宅療養されている方の買い物を代行するなどの生活支援を延べ13件行いました。

次に、権利擁護センターでは、成年後見制度の理解や利用促進、関係機関との連携により取り組む「地域連携ネットワーク」立ち上げのため、本会も雲南市に設置された「中核機関」に参画いたしました。そして、本会が受託した成年後見制度の広報（実施回数4回）・啓発事業として一般、専門職等関係者への研修会を3回実施（延べ43人参加）しました。

次に、福祉のまちづくり促進センターでは、学校における福祉教育の実践として、本会が作成した「福祉の学び合いハンドブック」にもとづき市内の小、中、高校を対象に福祉教育（共育）を進めました。その結果、小学校においては市内15校全ての学校で福祉教育を実施することができました。

保育所受託運営事業部門では、入所児童数は、三刀屋保育所133名、掛合保育所（入所定員が90名から80名へと変更）は65名でした。令和5年度以降、児童数の減少は経営に直結する課題として引き続き市担当部局との協議を進めて参ります。

地域包括支援センター事業部門では、介護支援専門員等の専門スタッフの欠員が続く中、何とか目標活動は展開することができました。実績については総合相談延べ 5,341 件、介護予防ケアマネジメント業務 7,829 件でした。そして年度末までに、新たに 2 名の介護支援専門員を確保、令和 5 年度での体制の整備を図ることができました。

最後に、在宅福祉事業・施設福祉事業部門が実施する介護保険事業を中心とした本会の経営状況について、「大東介護事業所」「三刀屋介護事業所」「介護予防はつらつ」において、新型コロナ感染にともなう休業や利用者数減等の影響により減収となりました。さらに、年間 4 回実施した職員採用試験では、看護師、介護職員を採用することができませんでした。あわせて原油高や諸物価の高騰が重なり、これから介護サービス事業の維持継続は厳しい状況も考えられます。

令和 4 年度の業績は新型コロナやウクライナ情勢などによる経営環境の悪化もありましたが、総じて経営基盤の維持は図れたところであります。

以下、6 つの事業部門ごとに、令和 4 年度に実施した事業の詳細をまとめて報告いたします。

## ■ 事業実施報告

### 1 法人運営事業部門

#### ○ 部門ビジョン（目指す姿）

組織を継続し成長させていくために

法人の全体最適に向けたマネジメントを戦略的に推進する

総務部を目指します

- ▶ 職員一人ひとりが自分らしさを発揮し、力を合わせて社協らしい総合力を発揮できる組織づくりを進めます。
- ▶ 法人経営を統括する部門として、職員一人ひとりが安心・安全に、やりがいをもって働くことができる組織基盤の強化に取り組みます。

#### 【総評】

成果

- ・目標管理制度の目標への取組みで職員の社会・業績・チームへの貢献実感が向上し始めた。
- ・各職階に必要なマネジメント力の体系的研修により成長予感と実践意欲が向上し始めた。

課題

- ・管理業務のIT化等による業務効率化とコア業務強化に向けた検討が必要

- ・社会構造の変化に対応するためのマーケティングによる経営戦略の検討が必要

#### 1 法人運営に関する業務

関係法令、定款及び諸規程等に基づくガバナンス（統治）体制の構築により、社会福祉法人に求められる公益的かつ透明性の高い事業の実施に努めた。

##### (1) 法人運営に関する諸会議の運営

- ① 理事会（業務執行の決定機関）の運営（3回）

##### 第5回理事会 6月1日

###### 【報告事項】

- ・会長、常務理事の職務執行状況について

###### 【議案事項】

- ・令和3年度事業報告について
- ・令和3年度決算について  
(監査報告)
- ・組織管理規則の一部改正について
- ・令和4年度資金収支第1次補正予算について
- ・評議員選任候補者の推薦について
- ・第4回評議員会（令和4年度定時評議員会）の招集について

##### 第6回理事会 12月15日

###### 【報告事項】

- ・会長、常務理事の職務執行状況について
- ・令和4年度上半期実施事業について

###### 【議案事項】

- ・令和4年度資金収支第2次補正予算について
- ・保育所職員給与規程の一部改正について
- ・保育所嘱託職員就業細則の一部改正について

- ・評議員選任候補者の推薦について
- ・次期役員について
- ・第5回評議員会の招集について

#### 第7回理事会 3月16日

##### 【議案事項】

- ・令和4年度資金収支第3次補正予算について
- ・給与規程の一部改正について
- ・保育所職員給与規程の一部改正について
- ・雲南市立掛合保育所保育業務委託契約の締結について
- ・令和5年度事業計画について
- ・令和5年度資金収支予算について
- ・第6回評議員会の招集について

- ② 評議員会（法人運営に係る重要事項の議決機関）の運営（3回）

#### 第4回評議員会 6月21日

##### 【議案事項】

- ・令和3年度事業報告について
- ・令和3年度決算について  
(監査報告)
- ・令和4年度資金収支第1次補正予算について

#### 第5回評議員会 12月23日

##### 【報告事項】

- ・令和4年度上半期実施事業について

##### 【議案事項】

- ・令和4年度資金収支第2次補正予算について
- ・理事の選任について

#### 第6回評議員会 3月27日

##### 【議案事項】

- ・令和4年度資金収支第3次補正予算について
- ・令和5年度事業計画について
- ・令和5年度資金収支予算について

- ③ 地域福祉委員会（地域住民の意見集約と提言機関）の運営（1回）

#### 第1回地域福祉委員会

- ・大東：5月11日
- ・加茂：4月26日
- ・木次：5月10日
- ・三刀屋：4月27日
- ・吉田：4月28日
- ・掛合：4月25日

##### 【報告事項】

- ・災害救援ボランティアセンターの活動について
- ・令和4年度雲南市社会福祉協議会 事業計画について
- ・生活支援体制整備事業について  
(各町の福祉活動全般に関する意見交換)

- ④ 理事事業担当部会（各部門の調整・調査・研究等の機関）の運営

- |         |      |        |      |
|---------|------|--------|------|
| ・総務企画部会 | 2回開催 | 12月8日  | 3月8日 |
| ・地域福祉部会 | 1回開催 | 11月30日 |      |

- ・介護保険事業部会 1回開催 11月15日
- ・保育事業部会 1回開催 11月21日
- ・地域包括ケア推進部会 1回開催 1月17日

⑤ その他の会議の運営

ア 三役会 4回開催 7月23日 9月17日 12月22日 3月1日

イ 評議員選任解任委員会 2回開催 6月2日 12月16日

【議案事項】評議員の選任について

ウ 企画調整会議 毎月1回、計12回開催

議題：部門間の情報共有や課題検討、経営状況の報告・分析等

(2) 法人運営に関する監査の受検（理事の職務執行、事業執行、計算関係書類及び財産状況）

① 監事による監査

ア 定期監査 令和3年度決算監査 5月23日受検

イ 中間検査 令和4年度中間検査 11月29日受検

監査結果：いずれも、文書指摘事項の該当なし。

② 内部監査人による監査（前期：8月・9月）

前期 8月4日・5日 9月15日

後期 2月22日・24日 3月24日

対象事業場：大東支所・大東介護事業所、加茂支所、木次支所、三刀屋介護事業所、

吉田支所、掛合支所・掛合介護事業所、ふれあいセンター、えがおの里、

三刀屋保育所、掛合保育所、地域包括支援センター

監査結果等：改善点の指導

(3) 関係法令に基づく定款、諸規程等の整備

① 定款、諸規程等の見直し及び改正等並びに所轄庁への届出を行った。

② 諸規程等審査委員会 2回開催 9月28日 3月6日

(4) 法人運営に関する情報公開（現況報告書・計算書類等）

① 社会福祉法人財務諸表等電子開示システムによる情報公開を行った。

② 本会ホームページによる情報公開 7月に更新した。

③ 本会広報紙「社協だよりうんなん」による情報公開

・4月号 令和4年度事業計画 予算概要を掲載した。

・7月号 令和3年度事業報告 決算概要、貸借対照表を掲載した。

## 2 社協会員に関する業務

定款及び会員規程に基づき社協会員の加入促進に努め、地域住民や関係機関の参加を旨とする社協の組織基盤の強化を図った。

(1) 会員の募集及び会費ご協力のお願い

社協会員に加入いただき、本会の運営を支える会費のご協力をいただくことができた。

会費種別	正会員：一般会費 (市内各世帯)	賛助会員：賛助会費 (理事・監事・評議員)	合計
会費金額(円)	10,592,800	86,000	10,678,800
※（ ）内は前年度額	(10,682,095)	(84,000)	(10,766,095)

## (2)弔電のお供え

会員世帯にご不幸があったとき、弔電を送り弔意を表した。

実施件数 529 件

内訳：大東 171 件 加茂 82 件 木次 114 件 三刀屋 94 件 吉田 34 件 掛合 34 件

## 3 人事管理に関する業務

人材の確保・育成・定着を進めるため、職員一人ひとりがそれぞれの業務に専念し、その能力を十分発揮できるよう支援した。

### (1) 役員研修等の実施又は受講

法人研修又は外部研修の受講

- |                            |          |    |
|----------------------------|----------|----|
| ・雲南市人権・同和教育推進協議会総会・研修/雲南   | 5月 30 日  | 1名 |
| ・しまね県民福祉大会/松江              | 10月 8 日  | 2名 |
| ・社協トップミーティング/浜田            | 10月 13 日 | 2名 |
| ・地域共生社会推進セミナー/Web 研修       | 11月 8 日  | 2名 |
| ・うんなんヒューマンライツ・フェスタ 2022/雲南 | 12月 10 日 |    |
| 第 16 回雲南市人権問題を考える講演会       |          |    |
| ・中・四国社協第 60 期研修会/Web 研修    | 1月 20 日  | 1名 |
| ・社会福祉法人役員研修/Web 研修         | 2月 22 日  | 1名 |

### (2) 人材の確保に向けた取り組み

① 魅力ある職場づくりと情報発信（各部門の報告に掲載）

② 職員の募集、採用試験の実施、採用

ア 第 1 回職員募集（令和 4 年 10 月 1 日採用予定）

募集職種 保健師、介護支援専門員、看護職員、介護職員、社会福祉士  
採用試験 7 月 23 日（土）  
採用内定 採用者なし

イ 第 2 回職員募集（令和 5 年 4 月 1 日採用予定）

募集職種 保健師、介護支援専門員、看護職員、介護職員、社会福祉士、総合職員  
採用試験 一次試験 9 月 3 日（土） 二次試験 9 月 17 日（土）  
採用内定 社会福祉士 2 名

ウ 第 3 回職員募集（令和 5 年 4 月 1 日採用予定）

募集職種 保健師、介護支援専門員、看護職員、介護職員、社会福祉士、総合職員  
採用試験 一次試験 12 月 4 日（日） 二次試験 12 月 18 日（日）  
採用内定 保健師 1 名、社会福祉士 1 名、総合職員 1 名

エ 第 4 回職員募集（令和 5 年 4 月 1 日採用予定）

募集職種 看護職員、介護職員  
採用試験 2 月 12 日（日）  
採用内定 採用者なし

### (3) 職員の育成及び自己実現を支援する取り組み

① 法人内部研修の実施

ア 新採用職員研修

- ・新規採用職員研修 4 月 1 日 5 名
- ・令和 5 年度採用内定者事前研修 3 月 25 日 5 名

イ 職員研修 ④ - ウとして実施した。

ウ 管理職研修 ④ - ウ考課者研修実施予定（8月）⇒ 新型コロナ感染拡大で中止

② 外部研修機関が実施する研修の受講推進

ア 福祉職員生涯研修（福祉人材センター主催の階層別研修）

・新任職員研修

新任職員コース/出雲 8月23日～24日 3名

・中堅職員研修

中堅職員コース/松江 7月20日～21日 1名

中堅職員コース/出雲 7月6日～7日 3名

中堅職員スキルアップ研修Ⅰ/松江 9月12日 4名

中堅職員スキルアップ研修Ⅱ/松江 9月29日 2名

・チームリーダー研修

チームリーダーコース/松江 5月18日～19日 1名

チームリーダーコース/出雲 5月24日～25日 3名

・指導的職員研修

指導的職員研修Ⅰ/出雲 10月17日 3名

指導的職員研修Ⅱ/前期/松江 11月14日 3名

指導的職員研修Ⅱ/後期/松江 12月12日 3名

・管理職員研修

管理職員コース/松江 9月21日～22日 2名

イ 職能別研修

・コミュニケーションソーシャルワーク実践基礎研修/前期 9月8日～9日 5名

・法人会計実務研修

中級コース/eラーニング 1名

上級コース/eラーニング 1名

ウ 課題別研修

・BCP策定推進セミナー/松江 8月17日 1名

・リスクマネジメント研修

リスクマネジメント研修Ⅰ/Web研修 1名

リスクマネジメント研修Ⅱ/Web研修 2名

・福祉サービス苦情解決研修会/Web研修 2名

・メンタルヘルス研修Ⅱ/Web研修 1名

・人権・権利擁護研修/出雲 2月8日 3名

③ セルフキャリアドックの実施

ア 対象職員ごとに定期的な人材開発等の実施

各部より受講職員を選び、定期的（3回）な面談等を通じた人材開発等を実施した。（対象職員6名）

イ 組織的課題等の改善に向けた対応

キャリア・コンサルタントによる組織的課題へのフィードバックを受けた。

④ 目標管理制度の運用

ア 係長級以上を対象とした実施による成果と課題の検証、改善等

5月～目標管理マニュアル勉強会 本所で実施した。

イ 目標面談（目標設定）、中間面談（中間評価）、育成面談（評価）の実施

- ・6月～目標管理制度の運用開始 各部でミーティング・目標を設定した。
- ・9月～中間評価 個人目標の進捗のサポート等を実施した。
- ・3月～育成面談 成果と課題の振り返りと評価を行った。

ウ 考課者研修、コーチング研修等の実施

- ・係長級コーチング研修（12月16日、1月19日、2月16日）30名
- ・主任級目標管理制度説明会の実施（11月9日、11月17日、11月21日）49名
- ・主任級目標管理制度勉強会の実施（1月26日）11名参加
- ・主任級目標管理制度研修会（2月27日）25名

⑤ 職員の資格取得に関する支援制度の実施

- ・介護職員初任者研修資格取得 1名

#### (4) 人材の定着に向けた取り組み

① 働きやすい職場づくりに向けた職員協議会等との意見交換の実施

② 職員一人ひとりの働きがいを高める目標管理制度の運用

制度運用は導入2年目でまだ様々な試行錯誤の段階となつたが、各部門の実践を検証し次のプロセスの重要性を確認できた。このモデル化を検討していく。

ア 部門ミーティングで経営理念、部門目標、個人目標の連鎖の意義と必要性を確認し合った。

イ アの連鎖を基盤として各人が「自分が目指したい目標」を設定し、心理的安全性を担保した上で上司やチームで共有・承認し合った。

ウ 設定した個人目標の達成に向け、必要に応じて上司やチームでサポートを行い、職員の努力や成果を認めるとともに課題等への気づきを促した。

エ ア、イ、ウの過程を踏まえた実践では、チーム内に「存在承認」「貢献実感」「成長予感」の醸成がみられ始めている。

⑤ 労働者名簿の整備と管理に関する業務

労働基準法に基づく法定三帳簿として整備し、必要な更新等の管理を随時実施した。

### 4 労務管理に関する業務

職員一人ひとりが安心・安全に、やりがいをもって働くことができる職場環境づくりを推進する。

#### (1) 労働法令等に基づく労務管理業務

① 労働条件の管理及び労働契約の締結

労働基準法に基づく雇入通知書を交付し、これに基づく労働条件の管理を行つた。

② 関係法令の施行・改正等に対応した就業規則及び関係諸規程等の整備及び遵守

- ・島根県最低賃金改定（10月より）に対応した準職員就業細則の一部改正を行つた。
- ・育児・介護休業法改正に対応した育児・介護休業等に関する規則の一部改正を行つた。

③ 職員協議会との協定等の締結及び管轄監督署への届出

ア 労働基準法第36条による時間外労働・休日労働に関する協定の締結と届出

9 事業場ごとの職員協議会代表委員との時間外及び休日の労働に関する協定の締結及び届出（締結期間 6事業所：11月より1年間／3事業所：4月より1年間）

イ 労働基準法第90条による就業規則（変更）の届出

就業規則等の改正に伴う、9事業場ごとの職員協議会代表委員への意見聴取と当該意見書を付した就業規則（変更）の届出を行つた。

## (2) 関係法令等に対応した労務管理業務

### ① 労働安全衛生法に基づく労務管理の実施

ア 定期健康診断の実施及び産業医による健康管理指導等

法人職員を対象に実施(351名) 結果を本人に通知し健康管理を促した。

イ 衛生委員会の設置による調査審議事項の検討と職場環境等の改善推進

(大東事業場・三刀屋事業場・えがおの里事業場・雲南市社協全体)

・大東事業場 毎月 1回 計 12回開催

・三刀屋事業場 毎月 1回 計 12回開催

・えがおの里事業場 毎月 1回 計 12回開催

・雲南市社協全体 3回開催 (4・9・2月 オンライン形式)

ウ ストレスチェックの実施と指導医による面接指導又は健康相談の実施

常勤職員を対象に実施 (228名) 10月 必要に応じて指導医による面談指導を実施した。

エ 労働災害防止に向けた取り組み

産業医による職場環境巡視と改善指導 2回 9月22日・2月13日

オ 新型コロナへの対策等 (対策本部の運営・警戒レベルに応じた対策等の立案・実施)

新型コロナウイルス感染症等対策本部の設置と運営 23回開催

国、県及び市等の対応指針並びに県内・市内・法人内での感染状況等を踏まえた対策を隨時協議し、職員の感染予防及び本会内での感染拡大防止を図った。

・新型コロナ感染状況の確認及びこれに基づく対策の協議及び決定

・感染拡大防止のための職員対応指針等の改定及び周知

### ② 働き方改革関連法及び労働施策総合推進法等への対応

ア 年次有給休暇取得の促進

上半期経過後、年度末前での取得状況の把握と取得の促しを行った。

イ 雇用形態に応じた公正な待遇の確保

就業規則や給与規程等の一部改正施行により、公正な待遇の確保を進めた。

ウ 職場のハラスメント防止対策の実施

ハラスメント防止に関する本会の取り組み及び相談窓口等の掲示を行い、周知と発生防止を図った。

### ③ 次世代育成支援対策推進法・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の推進

### ④ 障害者雇用促進法に基づく労務管理の実施

障がい者雇用 (5名) と就業環境の整備を進めた。

### ⑤ 労働災害発生件数 3件 (業務災害)

## (3) 福利厚生に関する労務管理業務

### ① 法定福利への加入と管理 (雇用保険・労災保険・健康保険・厚生年金保険・介護保険等)

### ② 法定外福利への加入と管理 (島根県民間社会福祉従事者互助会・雲南市社協職員会)

## 5 経理・財務管理に関する業務

関係法令、社会福祉法人会計基準及び諸規程等を遵守した会計処理を徹底し、経営状況を把握した健全経営を目指した。

### (1) 予算編成業務

#### ① 令和5年度法人運営事業・地域福祉事業の市補助金・委託金等の予算要求 (11月)

#### ② 部門別予算編成ヒアリングの実施 2月9日・14日

## (2) 会計管理業務

- ① 帳票及び台帳等の管理
- ② 計算関係書類（資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表）の作成

## (3) 財務管理業務

- ① 出納管理業務
- ② 財務及び固定資産の管理
- ③ 寄付金品の受付状況

受付件数	500 件	11, 212, 080 円	(前年度 535 件 11, 407, 459 円)
内訳・香典返し	422 件	9, 900, 000 円	
・見舞返し	19 件	226, 000 円	
・一般寄付	18 件	699, 781 円	
・指定寄付	4 件	30, 000 円	
・物品寄付	37 件	356, 299 円	

## (4) 決算業務

- ① 計算関係書類、附属明細書及び財産目録等の作成並びに監査の受検（5月23日）
- ② 現況報告書、計算書類及び財産目録等の所轄庁への提出

## (5) 契約に関する業務

経理規程第11章各条に基づく適正な契約事務を執行した。

## 6 総務に関する業務

社協全体を最適化していくマネジメントを進め、総合力を生かした社協らしさを発揮できる法人運営を目指した。

### (1) 中期経営計画の進行管理

- ① 目標管理制度と連動させた経営目的達成に向けた経営実践
  - 経営計画の経営理念と部門ビジョンに基づく部門目標の設定と職員目標への落とし込みを行い、目標管理制度により業務での実践を進めた。
- ② 中期経営計画推進会議の開催（中期経営計画のヒアリング及び意見交換）
  - ア 目標の連鎖（経営理念→部門ビジョン→部門目標→個人目標）の重要性と意義を確認し、その実践状況を確認し合った。
  - イ 6部門ごとに経営戦略・実施項目→事業計画への落とし込みと実践状況を確認し合い、成果と課題を明らかにした。
  - ウ 経営目標に掲げた「1顧客満足度」と「2職員満足度」の獲得に向けた意見交換を行い、業績向上を生み出すためのマネジメントの重要性を確認し合った。
    - ・総務部 11月24日
    - ・地域福祉部 10月13日
    - ・在宅福祉部 11月21日
    - ・施設福祉部 12月1日
    - ・子育て支援部 10月27日
    - ・地域包括ケア推進部 10月19日
- ③ 経営戦略・第2年次実施項目への取り組みと部門間連携の推進
  - 部門間連携の状況は各部門の報告に掲載

### (2) 広報・啓発事業

- ① 広報紙の発行
  - ア 社協だよりうんなん 4回発行：4月、7月、10月、1月（1回 12, 500部）
  - イ 地域の福祉 12回発行：4月～3月（1回 14, 000部）
- ② ホームページの運営 更新：随時
- ③ 広報編集会議の開催 2回開催 8月24日 11月8日

### (3) 苦情解決体制の整備

- ① 苦情処理第三者委員会の設置及び委員会の開催 1回開催 1月 30 日
- ② 福祉サービス苦情解決研修会の受講 10月 14 日（オンライン受講）
- ③ 苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員の設置及び体制の周知  
4月社協だより、ホームページ、重要事項説明書等により周知した。

### (4) 災害時対応体制の整備

- ① 事業継続計画（B C P）の策定に向けた部門間協議
- ② 各部門が連携した災害時対応体制マニュアル等の整備に向けた検討  
災害対応体制打合せ会議 6月 21 日
- ③ 災害救援ボランティアセンターの運営に関する関係機関との協議
  - ア 雲南市災害救援ボランティアセンター運営検討会議 7月 6 日
  - イ 雲南市災害ボランティアセンター活動マニュアル 改訂版の策定（7月）
  - ウ 市内 5 ライオンズクラブ（大東、木次、三刀屋、加茂島根、掛合）と雲南市社協との災害時におけるボランティア支援に関する協定調印式 5月 20 日

### (5) 指定管理者制度による社会福祉施設の管理運営

- ① 雲南市との協定の締結及び業務実施
  - ・基本協定及び年度協定に基づき指定管理業務を実施した。
  - ・指定管理施設の電気料金高騰に対する雲南市の支援補助を受けた。
- ② 協定に基づく社会福祉施設の管理運営
  - ア 大東町地域福祉センター（大東支所・大東介護事業所）
  - イ 木次高齢者コミュニティセンター（木次支所）
  - ウ 三刀屋健康福祉センター（本所・三刀屋介護事業所・地域包括支援センター）
  - エ 掛合健康福祉センター・掛合高齢者生活福祉センター（掛合支所・掛合介護事業所）
  - オ 入間コミュニティセンター（小規模多機能型居宅介護事業所）

## 7 式典及び行事に関する業務

雲南市や各関係機関等との共催による式典及び行事を開催し、社会福祉の啓発と推進を図った。

### (1) 雲南市戦没者追悼式

- ・日 時 10月 26日（水）午後 1時 30分～
- ・場 所 三刀屋文化体育館 アスパル
- ・主 催 雲南市、雲南市社会福祉協議会
- ・内 容 主催者・遺族代表・来賓代表による追悼の辞及び献花及びアトラクション
- ・参加者 180 人

### (2) 雲南市総合社会福祉大会

- ・日 時 10月 17日（月）午後 1時 30分～
- ・場 所 三刀屋文化体育館 アスパル
- ・主 催 雲南市、雲南市社会福祉協議会、雲南市民生児童委員協議会、雲南市老人クラブ連合会
- ・内 容 内閣総理大臣祝状伝達、雲南市長長寿者表彰、社協会長表彰及び感謝状贈呈等
- ・参加者 100 人

### (3) 雲南市民歳末余芸大会（12月）※ 新型コロナ拡大防止のため中止

ケーブルテレビでこれまで開催した余芸大会のダイジェスト版を放送した。（12月）  
主催：雲南市・社協・山陰中央新報社・J A・商工会

## 8 地域における公益的な取り組みの推進に関する業務

社会福祉法（第 24 条第 2 項）に規定される地域における公益的な取り組みを推進し、社会福祉法人としての責務を果たす。

### (1) 社会福祉士等の養成に係る取り組み（実習生の受入れ）

- ① 関係法令に基づく相談援助実習指導員の配置　社会福祉士 2 名を登録
- ② 社会福祉士養成校等が求める相談援助実習施設としての協力　4 校と協定

### (2) 雲南市社会福祉法人連絡会事業への参画（複数法人間連携事業への参画）

- ① 法人連絡会の事務局業務
- ② 身近でなんでも相談窓口ネットワーク事業への参画（所管：地域福祉部）
- ③ うんなん福祉・安全サポーター事業への参画（公用車へのドライブレコーダー設置）

### (3) 現況報告書への記載と情報発信

本会の各部門が取り組む公益的な取り組みを把握し、現況報告書へ記載の上、積極的な情報発信に努めた。

## 9 日本赤十字社島根県支部雲南市地区の運営に関する業務

日本赤十字社島根県支部の雲南市地区事務局として、日赤事業の連絡調整と普及・啓発を担った。

### (1) 日赤島根県支部雲南市地区事務局業務

日赤島根県支部評議員会 2 回 6 月 21 日（本会評議員会と同日開催のため欠席）、3 月 1 日

### (2) 日赤事業の啓発活動の推進

- ① 日赤街頭キャンペーン活動の実施 ※ 新型コロナ拡大防止のため中止
- ② 日赤会費募集の推進（5 月） ご協力いただいた会費 6,602,050 円
- ③ 日赤島根県支部広報誌「しまねの赤十字」の配布 4 月、10 月

### (3) 学校や地域からの救急法研修会等の申請に対する連絡調整 11 件

### (4) 災害時の被災等に対する救援物資及び見舞金等の支給

- ① 災害見舞金品の支給 8 件（火災被害）
- ② 災害救援物資の保管管理 毛布 22 枚、緊急セット 7 セット、タオルケット 7 枚

### (5) 災害被災地の支援に係る義援金募金への協力

災害等義援金活動への協力 7 件

## 2 地域福祉事業部門

### ○ 部門ビジョン（目指す姿）

誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくるために  
地域を基盤としたソーシャルワークを包括的に実践し　暮らしやすさを追求する  
地域福祉部を目指します

- ▶ 福祉サービスを必要とする方が、地域のつながりの中でその人らしく暮らせるよう、地域とのつながりに配慮した個別支援を進めます。
- ▶ 誰もが安心して暮らし続けられる地域の実現に向けて、地域住民と専門職がお互いの強みを活かし合える、協働と実践の場づくりを進めます。
- ▶ 住民福祉活動組織と共に支え合う活動の場づくりを進め、住民参加を通じた理解と共感を広げ、地域を元気にするやりがいある共助を育みます。

#### 【総評】

成果　・コロナ禍でも関係機関との連携により、途切れることのない相談支援を継続した。  
・行政との連携により、権利擁護に係る制度の広報啓発を充実強化した。  
・コロナ禍を経て、地域の「集う　つながる　協働する」福祉意識が高まった。

課題　・コロナ禍や物価高騰のなか、生活再建に向けた相談支援体制の強化  
・権利擁護にかかる各種制度対象者の掘り起こし  
・第2層生活支援コーディネーターが担う役割等の認識共有の促進（地域福祉推進員）

### 1) 生活支援・相談センター

#### ○ 運営方針

～まずは相談を受け止め　課題解決を共に目指し  
　　その人が主役の自立支援を進めます～

#### ○ 実施事業

##### 1 総合相談体制の充実

###### □ 支援目標

多様な相談をまずは受け止め、相談者と共に課題に向き合い、改善・解決に向けた支援体制を構築し、その人の自立を支援する。

###### (1) 生活困窮者への自立支援

###### ① 生活困窮者自立相談支援事業（市受託事業）

ア　総合相談（訪問による相談援助「アウトリーチ」を含む）

イ　分析・支援ニーズの把握

ウ　支援プランの作成

エ　支援調整会議・サービス提供

オ　定期的なモニタリング（状況把握）・必要に応じたプラン修正

カ　終結・フォローアップ（追跡評価）

② 生活困窮者家計改善支援事業（市受託事業）

ア 家計管理に関する支援

イ 滞納の解消や各種給付金制度等の利用に向けた支援

ウ 債務整理に関する支援

エ 貸付のあっせん

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 (前年度)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合相談新規受付実人数	14	15	13	19	18	14	184 (248)
	12	16	9	20	16	18	
リ 相談支援延べ人数	345	411	420	313	369	393	4,095 (4,777)
	257	302	317	299	295	374	
うち自立相談支援実件数	12	11	4	12	12	6	91 (133)
	3	3	6	6	11	5	
リ 自立相談支援延件数	325	369	388	297	341	377	3,703 (4,155)
	239	273	286	250	257	301	
支援調整会議開催（回）	1	1	1	1	1	1	11 (12)
	1	1	1	1	0	1	
自立支援プラン作成件数	2	2	5	5	2	2	28 (33)
	4	2	1	1	0	2	
家計再生プラン作成件数	2	1	4	3	2	0	16 (19)
	1	2	0	0	0	1	
自立支援終結	3	0	1	2	0	0	10 (11)
	1	1	0	1	0	1	
家計支援終結	0	0	0	0	0	0	0 (8)
	0	0	0	0	0	0	

③ くらしの相談（法律相談、無料、予約制）

ア 弁護士相談（毎月第2木曜日13:30～15:30、一人30分）

イ 司法書士相談（毎月第4金曜日13:30～16:30、一人1時間）

○ 実施状況（会場：三刀屋健康福祉センター）

相談種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 (前年度)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
弁護士相談（月4人枠）	4	4	4	4	4	4	47 (42)
	4	3	4	4	4	4	
司法書士相談（月3人枠）	3	2	1	3	2	3	28 (31)
	3	2	2	3	3	3	

○ 相談内容

区分	相続	財産 土地	債務	職業	家族	結婚 離婚	事故	健康 医療	福祉	苦情	その他	合計
弁護士相談	8	9	14	2	4	4	1	1	0	0	4	47
司法書士相談	12	8	4	0	2	1	0	0	0	0	1	28
合計	20	17	18	2	6	5	1	1	0	0	5	75

## (2) 地域を基盤とした相談支援ネットワークの構築

- ① 地域包括支援センター、民生児童委員協議会、地域自主組織、ボランティア団体等との連携
  - ア 部門間、部内間連携によるニーズキャッチ、支援の仕組みづくり
    - ・個別支援・地域支援4センター学び合い会議を共同実施した。 5月26日
  - イ 個別支援に携わる地域包括支援センター、権利擁護センター、生活支援・相談センターの連絡会による援助技術の資質向上
    - ・個別支援3センター会議を共同実施した。 4月21日、5月19日、6月16日、7月21日、10月24日
- ② 研修会等の企画実施・研修会等への参加
  - ア 地域福祉力・職員資質の向上
    - ・雲南市男女共同参画推進委員会 4月28日、9月30日、2月24日
    - ・雲南障がい者就業・生活支援センター連絡会議 7月21日
    - ・雲南市自死防止総合対策検討委員会 8月24日
    - ・雲南圏域女性に対する暴力対策関係機関連絡会 10月21日（オンライン）
    - ・島根県生活困窮者自立支援制度連絡会議 10月31日（オンライン）
- ③ 雲南市社会福祉法人連絡会との事業連携
  - ア 身近でなんでも相談窓口ネットワーク事業の協働
    - ・14法人受付実績 66件 うち社協 45件

## 2 生活支援の充実

### □ 支援目標

総合相談で受け止めた生活困窮課題の改善・解決に向け、資金融資や就労準備のサポート、狭間のニーズへの新たな対応策によって、その人の自立を支援する。

#### (1) 資金融資による生活基盤の充実

- ① 生活福祉資金貸付（県社協受託事業）
  - ア 貸付時及び償還時における生活困窮者自立支援事業等との連携
  - イ 新型コロナ特例貸付償還事務体制の充実（県社協）【新規】
    - ・臨時職員1名を配置した。

#### ○ 貸付状況

区分	大東	加茂	木次	三刀屋	吉田	掛合	本所	合計
新規貸付	0	0	0	0	0	0	42	42
(前年度)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(130)	(130)
【内コロナ特例】	【0】	【0】	【0】	【0】	【0】	【0】	【41】	【41】
償還完了	0	0	0	0	0	0	81	81
【内コロナ特例】	【0】	【0】	【0】	【0】	【0】	【0】	【77】	【77】

#### (2) 民生融金貸付

#### ○ 貸付状況

区分	大東	加茂	木次	三刀屋	吉田	掛合	合計
新規貸付	5	1	5	7	0	1	19
(内緊急)	(4)	(0)	(3)	(2)	(0)	(0)	(9)

償還完了	7	0	3	3	0	0	13
徴収不能	0	0	0	0	0	1	1
貸付中	2	1	4	4	0	1	12

## (2) 狹間のニーズに対する支援メニューの研究開発

- ① 生活困窮者就労準備支援事業（市受託事業）
  - ア 生活自立支援（起床や定時通所の促しなど）
  - イ 社会自立支援（基本的コミュニケーション能力の形成など）
  - ウ 就労自立支援（就労体験、模擬面接、履歴書作成指導など）
    - ・就労準備支援件数 0 件（前年度 3 件）
    - ・就労準備支援終結 1 件（前年度 2 件）

### ② 支援メニュー研究開発事業

- ア 島根県共同募金会助成金の活用による就労準備支援事業の充実、強化
  - ・管理機 1 台を整備した。
  - ・e スポーツ用機器備品を補充した。
- イ 就労体験（農福連携）などへの協力者・協力企業等の開拓
  - ・まずは社協内から布切り等屋内作業の提供を受けた。

## 3 社会的包摶の実現【地域生活支援】

### □ 支援目標

社会的排除や社会的孤立などの社会問題に対し、みんなで理解し、みんなで考え、みんなで行動することによって、その人の自立を支援する。

## (1) 地域生活支援の実践を通じた学びの支援

- ① 窮迫課題への対応
  - ア 緊急現金貸付
    - ・貸付実績 9 件（大東 4 ・木次 3 ・三刀屋 2）
  - イ フードバンク（福祉のまちづくり促進センターのフードドライブと連携）
    - ・支援実績 25 世帯 51 人
    - ・賞味期限が近づいた食品の活用実績 44 世帯 65 人
    - ・企業等から寄付された食品の活用実績 88 世帯、4 事業所
  - ウ 生活備品貸出
    - ・支援実績 貸出 7 件（電子レンジ、電気ケトル、扇風機、自転車等）
    - 返却 6 件（電子レンジ、扇風機、自転車等）
  - エ 入浴料助成 ・申請なし
  - オ 入居債務保証支援（県社協） ・申請なし
  - カ 雲南市新型コロナウイルス感染症対策生活支援事業（市委託）【新規】
    - ・支援実績 11 世帯 のべ 13 件（買物 11 件、薬受取 2 件） 年齢：20 代～90 代

### ② ひきこもり等支援

- ア 集う場所「フリースペース」の開催（行政と共に）
  - ・実績 11 回（毎月第 1 木曜開催、8 月は新型コロナ感染症拡大の影響で中止）
    - 延べ 111 名参加（内 1 名はオンラインによる参加）
  - ・当事者による e スポーツクラブの企画会議や活動に参画した。 実績 8 回
    - 6 月 30 日、7 月 28 日、9 月 29 日、10 月 27 日、11 月 24 日、12 月 22 日、1 月 26 日、3 月 23 日
  - ・ひきこもり支援コアメンバー会議へ参加した。 実績 2 回 5 月 12 日、10 月 3 日
  - ・雲南市ひきこもり支援ネットワーク会議へ参加した。 実績 1 回 11 月 1 日

- イ 参加の場「みんなの畠（室山農園）」への参加支援  
・毎週水曜参加同行した。 支援実績 3名（30代～60代）  
・島根県共同募金会助成金により購入の管理機を活用した。

#### 4 住民参加による地域生活支援

##### □ 支援目標

地域の住民や自主組織、行政、関係機関、団体等による協働の場を形成し、参加と協働の相乗効果を発揮した事業の展開によって、その人の自立を支援する。

##### (1) 相談・支援のネットワークの充実

- ① 身近でなんでも相談窓口ネットワーク事業  
ア 事業の推進、担当者研修会の実施  
・担当者連絡会研修会を開催した。 9月22日 於：三刀屋健康福祉センター

##### (2) 福祉サービスの融合、開発、確保

- ① 子どもへの学習支援にかかる実態把握  
ア 本市のニーズ状況や支援状況の実態把握  
・他機関の活動状況を把握するためスクールソーシャルワーカーと情報を共有した。  
9月27日 於：雲南市社会福祉協議会木次支所

## 2) 権利擁護センター

### ○ 運営方針

～意思決定を支え 権利を擁護し

その人らしい安心な暮らしの実現を支援します～

### ○ 実施事業

#### 1 権利擁護体制の構築

##### □ 支援目標

高齢や障がいなどで判断能力に不安を感じる方、意思決定が困難な方などの権利を擁護し、地域でのその人らしい安心な暮らしを支えていく。

##### (1) 日常生活自立支援事業の充実〔支援体制 専門員2名 生活支援員37名〕

- ① 日常生活自立支援事業（県社協受託事業）  
ア 支援プラン作成  
イ 生活支援  
ウ 地域や生活支援関係機関との連絡調整  
エ 生活支援員研修 県社協主催 10月7日 13名（リモート参加）  
市社協主催 2月28日 18名  
オ 利用者負担額助成（雲南市、市社協） 対象者71件  
カ 地域生活支援の推進に向けたケース会議  
・包括支援C、生活支援相談Cとの意見交換会を実施した。

○ 実施状況 ※( )内は前年度

支所区分	大東	加茂	木次	三刀屋	吉田	掛合	本所	合計
利用者数	12 (14)	8 (8)	16 (17)	16 (18)	3 (4)	10 (13)	6 (5)	71 (79)
区分	認知高齢	知的障がい	精神障がい	その他			合計	
利用者数	10 (14)	38 (41)	22 (23)	1 (1)			71 (79)	
実施サービス種別			利用者数(人)			支援延数(回)		
福祉サービス利用援助			71			1,539		
日常的金銭管理サービス			71			1,539		
書類等預かりサービス			71			71		
定期訪問による状況把握・見守り			71			1,539		
相談・問合せ	新規契約	終了	契約保有	支援会議	支援員研修			
3,542 件 (3,561 件)	2 件 (14 件)	4 件 (10 件)	67 件 (69 件)	33 回 (50 回)				—

## ② その他

### ア 事業実施状況等の調査への対応

- ・県運営適正化委員会による現地調査 9月9日
- ・県社協による現地調査 11月4日

### イ 県社協主催研修会への参加 (すべてリモート参加)

- ・責任者研修会 6月17日 2名
- ・新任専門員研修会 6月17日 1名
- ・専門員研修会・連絡会 9月5日 3名、1月23日 2名
- ・成年後見制度移行検討ガイドライン活用セミナー 12月8日 5名

### ウ 新型コロナウイルス感染症への対応について

- ・県社協通知に基づき、関係機関と調整し効率的に支援した。
- ・生活支援員は利用者への訪問前に検温を実施した。
- ・入所者への面会制限で利用者への対面支援が実施できない際に支援関係者による代理受領を依頼するなど、利用者への影響を最小限に抑えることに努めた。

### エ 課内会議の開催 8回 (ケース検討、連絡事項など)

## (2) 法人後見事業の充実 [支援体制: 社会福祉士2名、法人後見支援員1名]

### ① 法人後見事業 (法人による成年後見への取組)

#### ア 運営委員会の開催 8月26日、2月22日

#### イ 受任審査会の運営 2月22日

#### ウ 被後見人等に対する成年後見制度に基づく支援

- ・財産管理、身上監護、家庭裁判所や関係機関等との連絡調整

受任件数 8件 (すべて後見類型)

財産管理 431回 (昨年度 417回)

身上監護 382回 (昨年度 323回)

- ・家庭裁判所との連絡調整等 定期報告8回、臨時報告1回

エ 市役所所管課との連絡調整等

- ・中核機関事務局の雲南市長寿障がい福祉課と連携協働した。

　相談機能：個別ケースの相談等 6 件、11 回

　利用促進機能：第 1 回受任調整会議への参加 6 月 20 日

オ 地域生活支援の推進に向けたケース会議

- ・包括支援 C、生活支援・相談 C との意見交換会を実施した。

カ 制度の利用促進に向けた周知、啓発の実施（雲南市）【新規】

- ・広報「地域の福祉」へ掲載した。 4 回（4 月号、5 月号、12 月号、1 月号）

キ 一般、専門職等関係者への研修（講座）の実施（雲南市）【新規】

- ・制度利用が必要な方へ適切に繋がるよう実施した。

　市内福祉事業所職員対象 10 月 21 日 22 名

　介護の入門的研修の 1 コマ 11 月 25 日 10 名

　市内民生児童委員対象 01 月 24 日 11 名

（※ 上記カ、キは中核機関機能の一部受託（広報・啓発機能）によるもの）

ク センター内における成年後見制度等に関する相談や問合せへの支援

　ケース相談および支援 7 件、19 回

　ケース会議等への参加 3 件、13 回

　顧問弁護士への相談 2 件、09 回

ケ 新型コロナへの対応

- ・厚労省及び日本社会福祉士会の通知に基づき、感染防止策を講じ支援した。

- ・施設、病院等の面会制限のなか、電話連絡による被後見人の心身状況把握に努める等、臨機応変に対応した。

- ・必要に応じて被後見人へワクチン接種の説明を実施した。

## 2 当事者組織活動の推進

### □ 支援目標

当事者主体の地域福祉活動の推進を目的として、当事者組織の特性が発揮されるようその活動を支援する。

#### （1）当事者主体による組織運営の充実に向けた働きかけ

##### ① 団体活動実践の支援（事務局を担当）

ア 雲南市母子会 ・理事会 2 回、代議員会 1 回、監査会 1 回

イ 雲南市手をつなぐ育成会 ・理事会 3 回、代議員会 1 回、監査会 1 回

ウ 雲南市身障者協会 ・理事会 3 回、代議員会 1 回、監査会 1 回

※3 団体とも代議員会は書面議決

エ 被爆者協会（木次圏域） ・9 月総会実施（書面決議）

#### （2）当事者組織の地域福祉推進機能の充実

##### ① 団体活動財源の支援

ア 雲南市母子会、雲南市手をつなぐ育成会、雲南市身障者協会、雲南市遺族会への助成

##### ② 当事者等組織にかかる現状及びニーズの把握

ア 雲南市手をつなぐ育成会 ・あさがおの会との意見交換会を実施した。

（あさがおの会…雲南市民で組織される知的障がい児（者）親の会）

### 3) 福祉のまちづくり促進センター

#### ○ 運営方針

～地域住民一人ひとりが主役で目指す

“安心して暮らし続けたい地域づくり”を支援します～

#### ○ 実施事業

##### 1 福祉教育（共育）の推進

###### □ 支援目標

学校や地域住民、ボランティア等と共に学び合う共育の場づくりを進め、地域福祉の実践に向けた理解と共感の輪を広げていく。

###### (1) 学校における福祉教育（共育）の実践

###### ① 総合的な学習の時間など福祉学習への実践支援（支援計画作成 ⇒ 実践 ⇒ 振り返り）

- ・担当教諭と福祉の学び合いハンドブックを共有し、協同実践を展開した。

実施学校	内容（一部抜粋）	主な協同機関	児童生徒数
小学校 15校/15校	ふくしへ何だろう 車イスを体験してみよう 障がいについて学ぼう	・社会福祉法人 ・地域自主組織 (地域福祉推進員) ・在宅福祉部 ・地区民児協 ・要約筆記「くみとやだんだん」 ・島根県ボッチャクラブ ・当事者の方 ・島根オロビート浜田	337人
中学校 5校/7校	福祉について知ろう 高齢者的心と体の変化を知ろう 地域の福祉課題と福祉活動について		141人
高校 2校/3校	介護技術体験 高齢者の地域での生活支援を考える 障がいのある人たちへの理解		104人
22校/25校	総日数：66日間	総時間数：98時間	合計：582人

- ・福祉教育（共育）実践に対し共同募金財源による助成支援を行った。 15校

###### ② 社会資源を活かした福祉の学び合う学習の実施

- ・市内中学生を対象としたサマーボランティアスクールは、夏休み期間中に実施することの日程調整等が厳しく、学校単位での福祉教育（共育）を重点的に行うこととした。

###### ③ 福祉教育（共育）実践に携わる関係者の連携強化

- ・学校とのネットワークづくりのため、学校関係者、市教委、教育支援コーディネーター等で構成される各校区管理職会議に出席し、福祉教育に関する意見交換を行った。
- ・社協部門間連携に向け、9/27 に在宅福祉部管理職と「ふくしの学び合いマニュアル」を活用し、福祉教育の目的と価値について学び合った。

###### (2) 地域を基盤とする福祉教育（共育）の実践

###### ① 地域自主組織を推進主体とした福祉教育（共育）

- ・学びによる「支え合い」の場づくりと、活動を通じた振り返りによるやりがいづくりに向け支援した。 「2小地域福祉活動の推進/活動実践の支援」に掲載
- ・地域の福祉力を育む「ふくしを思う人づくり推進事業」を実施した。 (重点支援3地区:2年目/3年間)

福祉圏域	(指定地区) 地域自主組織名	福祉圏域	(指定地区) 地域自主組織名
大東	幡屋地区振興会	三刀屋	一宮自主連合会
掛合	掛合自治振興会		

- ・支え合う福祉のまちづくり講座の開催

依頼があった出前講座の種別	依頼先の組織・グループの種別/数	参加者数
福祉って何だろう 自治会福祉委員の大切な役割	地域自主組織福祉部	5 123

福祉ってなに？・助け合いゲーム等	地域自主組織福祉部・自治会等	5	119
ふれあい・いきいきサロンを学ぶ	地域自主組織福祉部（サロン代表等）	2	29
地域の見守り支援について ～今日からできる私たちの福祉～他地区の事例等	地域自主組織福祉部	2	37
認知症を支えるサポーター養成研修	地域自主組織福祉部	2	33
社協は何をしているところ？	コミュニティースカンパニー	1	5
福祉って何だろう ～地域の福祉課題と一緒に考える～	地域自主組織福祉部・自治会	3	59
視覚に障がいがある方への 車いすの操作の仕方	社会教育関係者等	1	16
合 計		21回	421人

- ② ボランティアグループ等を推進主体とした福祉教育（共育）  
 ・活動推進を目的とした研修やボランティアグループや事業所による高校生ボランティアの受け入れ調整等を行った。「3ボランティア活動の推進/[2]ボランティア活動実践の支援」に掲載
- ③ 「ふくしの学び合い」推進助成事業の導入（県社協：1年目/2年間）【新規】  
 ・(1)学校及び(2)地域における福祉教育（共育）の更なる推進のため、多様な主体による「ふくしの学び合い」プログラム構築準備と地域における福祉教育プラットフォーム（協議の場）づくりを進めた。
- ④ 県社協主催～豊かな人生の学び舎～「くにびき学園（5年度）」との連携  
 ・学びと地域をつなぐ仕組みづくりに向けて2回の協議を行った。1/11、3/1

## 2 小地域福祉活動の推進

### □ 支援目標

住民自治を担う地域自主組織と共に、地縁の力を發揮した“その地域ならではの暮らしの支え合い（共助）”を深めていく。

- (1) “その地域ならではの暮らしの支え合い”への伴走型支援（活動実践の支援）  
 ① 第1層（市域）生活支援コーディネーター（CN）の専任配置  
 ・市職員と共に専任の社協職員を配置し、地域生活課題の解決・改善に向けた地域支援体制の構築と第2層（30地区域）生活支援CN（地域福祉推進員）の育成・支援を進めた。
- ② 生活課題を解決するための話し合いの場（1層・2層協議体）を仕組み化【事業2年目】  
 ・社協4センター（地域包括支援、生活支援相談、権利擁護、福祉のまちづくり促進）学び合い会議を開催し、他分野・他職種による「ふくしの地域づくり」への意識統一（課題共有）のための話し合いの場を設けた。

実施日/会場	5/26 社協本所多機能集会室
開催の目的	地域共生社会の実現に向けて、共助と公助が連携・協働する必要性を再確認するとともに、社協の個別支援者と地域支援者の連携の現状と改善策を学び合う。
参加者	▶個別支援：生活支援・相談センター（2人）、権利擁護センター（3人） ▶地域支援：福祉のまちづくり促進センター（10人） ▶地域包括支援センター（8人）▶行政（1人）合計：24名
内 容	(1) 基調説明 「本会の役割やミッション」 (2) 現状報告 「協働～支援者の思い～」 (3) 意見交換 「個別支援と地域支援の現状と壁」 (4) まとめ

・地域支援者と多機関がつながり合う一歩として、支援者それぞれの役割を認識共有し、支援者間のつながりを促すため、「つながりたい人が見つかる支援名簿」を作成した。

【掲載した機関・支援者】 i 民生児童委員 ii 居宅介護支援事業所（ケアマネ）iii 障がい福祉施設相談事業所（相談員） iv 病院連携室（相談員） v 行政地域づくり担当者 vi 保健師 vii 社協4センター担当者  
 ・地域との協働実践として、「4.住民参加による地域生活支援」を展開した。

- ・社会資源の発掘・発見を促す目的で、4地区の取組を調査し「社協だより」に社会資源の意義と価値を啓発した。

【掲載した内容】 i 三刀屋地区で40年間続くラジオ体操の集い（4月号） ii 加茂町ふれあいの丘でグランドゴルフを楽しむグループ（7月号） iii 多根地区で地域に根差しがながりの場となっている理容店（10月号） iv 幡屋地区のとれたて野菜市（1月号）

- ・第1層域の話し合いの場づくりに向け、以下のような課題を整理し次につなげた。

【課題】 i 身寄りのない地域転入者のつながりづくり  
ii 地域での見守り活動等に必要な福祉サービスの利用状況等の確認方法  
iii 話し合いの場における個人情報の取り扱い

### ③ 「福祉力」をつけていくために“学び合い（知る⇒気づく⇒学ぶ）”から再構築し、福祉活動実践を通じたP D C Aサイクルの循環

#### ア 福祉の基礎編学び合い会議（初任者研修）

- ・地域自主組織福祉部の初任者等を対象に、実践の柱となる基礎的知識等を学び合った。

実施日/会場	5/9、5/16 オンライン形式
開催の目的	新任の地域自主組織福祉部長・地域福祉推進員の方を対象に、その地域福祉を推進していくための大切な“ふくしの基礎”について関係者間で学び合い、意識共有する。
参加者	▶地域自主組織福祉部長・地域福祉推進員・事務局員（10名） ▶市行政職員（3名） ▶社協支所福祉圏域担当職員ほか（9名） 計 22 人
内 容	(1) 導入 「ひとこと自己紹介」 (2) 学び合い①「福祉ってなに？～まずは認識の共有から～」 学び合い②「助け合って意外と楽しい？～助け合いゲーム体験～」 学び合い③「福祉部長と地域福祉推進員の大切な役割」 学び合い④「行政・社協が住民福祉活動を支援する意義とは」 (3) まとめ

- ・5/26、5/31 に行政主催で開催された「地域自主組織 新任役員・スタッフ研修」に「雲南市が目指す地域福祉」として、健康福祉部とともに研修動画を作成し提供した。

#### イ 地域学び合い会議（地域自主組織個別研修）

- ・地区ごとに出向き、事業運営等の情報交換や活動検討の支援を行った。
- 内容は「1 福祉教育の推進/地域自主組織を推進主体とした福祉教育」に掲載
- ・エ（6/29）の会議内容を地区単位で更に深め合った。（27地区を巡回訪問）
- ・第2層域の話し合いの場として以下の3地区で実践した。

i 加茂つながり会議 ii 掛合地区支え合い会議 iii 八日市地区支え合い会議

#### ウ 町別学び合い会議（町域別研修）

- ・7月中旬にかけて、エの会議内容を町別の地域自主組織間で更に学び合う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の懸念から、地区単位等での開催にシフトした。

#### エ 市域学び合い会議（市域全体研修）

- ・「支え合い活動学び合い会議」として、地域のやりがいを育む活動のあり方について、地域とともに学び合った。

実施日/会場	6/29 オンライン形式
開催の目的	共助と公助が連携・協働する“話し合いの場”的目的等を認識共有するとともに、活動を進めるための大切なチームワークを高めるポイントを学び合う。
参加者	・地域自主組織からの参加（主に福祉部長・地域福祉推進員 38名） ・市行政（8名）・市社協（12名） 合計：58名
内 容	(1) 振り返り 「令和4年度“共助×公助”的支え合い活動学び合い会議」 (2) 行政説明 「連携・協働する“話し合いの場”って何？」 ～目的・役割等を確認し合いましょう～ (3) 基調説明 「チームで課題解決する大切なポイント」 ～チームワークを高めるために～ (4) 意見交換 「これで良いのか 話し合いの場」 (5) まとめ

- ・地域より、ふれあい・いきいきサロンの維持・継続していく課題が提起され、地域自主組織関係者とともにアイデアを出し合い学び合った。

実施日/会場	1/31、2/1 チェリヴァホール3階大会議室
開催の目的	介護予防の必要性を再確認するとともに、サロンを続けていくためのアイデアを出し合い、そのヒント等を見つけ合う。
参加者	・地域自主組織からの参加者（主に福祉部長・地域福祉推進員47名） ・市行政（10名）・市社協（10名） 合計：67名
内 容	(1) 基調説明 「健康は私のため、地域のため」 (2) 課題提起 「雲南市内のふれあい・いきいきサロン活動の現状」 (3) 意見交換 【テーマ別】①男性参加者を増やす ②サロン会場への移動手段 ③参加者減少の対策 ④コロナ禍でのサロン活動 (5) まとめ

- ・「1 福祉教育の推進/地域自主組織を推進主体とした福祉教育」より、ふくしを思う人づくり推進3地区の事業連絡会議を行った。

実施日/会場	3/3 チェリヴァホール3階大会議室
開催の目的	事業目的を再確認するとともに、他地区の取組を共有することで、今後の活動を深めていくヒントを学び合う。
参加者	・推進3地区（幡屋・一宮・掛合地区の福祉部長・地域福祉推進員9名） ・市行政（5名）・市社協（6名） 合計：20名
内 容	(1) 基調説明 「ふくしを思う人推進事業が目指すもの」 (2) 実践報告 ①幡屋地区 ②一宮地区 ③掛合地区 (3) 意見交換 「“大切にしてきたこと” “悩んでいること”を語り合いましょう！」 (4) まとめ

## (2) 活動財源の支援

- ① 赤い羽根地区福祉委員会活動助成（財源：共同募金・福祉事業寄付金）
  - ・寄付者の思いが託された「意志あるお金」を、地域自主組織福祉部（地区福祉委員会）活動を支える活動費として助成し、「寄付（思い）」が支える、市民が主体の福祉活動＝住民自治の実践」を支援した。

共同募金財源	6,200千円	寄付者から「がんばる福祉活動のために」と託された共同募金を財源とした。
社協寄付金財源	4,768千円	寄付者から「地域の福祉のために」と託された社協への福祉事業寄付金を財源とした。

- ② ふれあい・いきいきサロン活動助成（支援）（財源：市委託料）
  - ・高齢者の閉じこもり予防と生きがいづくり活動促進による介護予防を目的としたサロンを推進する27地区の地域自主組織へ2,430千円を交付し、243サロン活動を支援した。
  - ・コロナ禍等により、地域から自治会単位でサロンの持続（継続）に課題がある声を多くいただき、10地区を訪問し聞き取り調査を行った。このことを地域との学び合いにつなげ、支援方策の見直しを図った。

## 3 ボランティア活動の推進

### □ 支援目標

ボランティアセンターを核に、共感（志縁）の力を発揮した“ボランティアならではの暮らしの支え合い（共助）”を深めていく。

#### (1) 新たなボランティア活動者の戦略的開拓

- ① ボランティアセンターの運営・事業企画等の協同実践
  - ・ボランティアセンター運営委員会を開催し、事業の方向性を提案・意見交換を行い、協同実践につなげ、振り返ることにより連携・協同の必要性を確認し合った。

実施日／会場	6/28 三刀屋健康福祉センター会議室
開催の目的	今年度のボランティアセンター事業の進め方を協議し、協同実施に向けた諸調整を行う。
参加者	・5つのボランティア団体 ・雲南市の関係3部（健康福祉部・教育委員会・政策企画部） ・社協ボランティア担当 他 計14名
内容	(1) ボランティアセンター事業の進め方について ・今年度の事業計画に基づく協同実践の進め方について ・地域での支え合い活動の取り組みについて (2) その他

実施日／会場	3/24 雲南市社協木次支所
開催の目的	今年度を振り返り、次年度の方向性について意見交換し、今後の実践につなげる。
参加者	・5つのボランティア団体 ・雲南市の関係3機関（健康福祉部・教育委員会・政策企画部） ・社協ボランティア担当 他 計13名
内容	(1) 報告・意見交換 令和4年度の事業実施状況 (2) 情報交換 各委員からのお知らせ等

## ② ボランティア活動者の開拓

### ア 市内3つの高校との連携による高校生ボランティアチャレンジの促進

- ・新型コロナ感染拡大を懸念し、本年度は保育所等へ赴く活動は実施しなかった。
- ・視覚障がい者へ社協だよりを録音するボランティア活動に三刀屋高等学校（放送部員）と同校掛合分校有志生徒（7人）・教員（2人）に参加いただいた。

### イ ボランティア活動者等との連携によるボランティア研修会の実施

- ・市内のボランティア活動に関心のある高校生を対象に、ボランティア活動団体等との協同実践によってボランティア活動の魅力を高校生に伝える研修を行った。

実施日／会場	6/14 三刀屋高等学校掛合分校
開催の目的	市内で活動するボランティア活動実践者の皆さんをボランティアの「先輩」として迎え、高校生の皆さんとの対話を通じてボランティアのチカラとその素晴らしさを感じてもらい、その価値を自分自身でも実践してみようとする主体性を育むことを目的とする。
参加者	・掛合分校：生徒（3年生）18人 ・掛合分校：担当教諭 1人 ・市内ボランティア活動実践者：2人 ・市社協：ボランティア担当者 3人 計24名
内容	(1) 基調説明 「ボランティアについて」 (2) 実践発表 「私のボランティアのやりがい」 発表者：三刀屋絵手紙ボランティア 小林和子 氏 (3) 絵手紙ワークショップ 講師：貞岡妙子 氏 小林和子 氏 (4) 振り返り

### ウ 地域密着型ボランティア活動の調査

- ・地域を支えるボランティア活動の把握等を目的として、再調査を行った。

### エ ボランティア紹介コーナーの設置

- ・ボランティア活動への関心や参加のきっかけづくりを目的に、情報提供コーナーを社協各支所や一部交流センター内に設置した。

### オ 総合型ボランティアセンターの検討（災害を想定した支え合いにむけた備え）

- ・令和5年2月27日、災害時のボランティア活動支援及び被災者支援等について、社協職員及び関係者（県社協・雲南市）との学び合いを行った。

## (2) ボランティアセンターによるボランティア活動支援

### ① ボランティア活動の充実に向けた支援

#### ア 活動の相談と個別の支援

- ・ボランティア団体、個人ボランティア、企業等からの個別の活動相談（14件）に応じるとともに、活動支援を行った。
- ・簡単・気軽に取り組んでもらえるボランティア活動として、古切手等の収集ボランティア情報を発信し、個人7件、企業3件、団体8件、匿名1件 計19件を受付けた。
- ・市内のボランティア活動や団体を紹介する「ボランティアのカタチ」を改訂し活用した。
- ・市社協だよりに年4回「ボランティアセンター通信」を掲載し広報活動に力を入れた。

#### イ 活動推進を目的とした研修及び情報交換会の協同実践

- ・共に支え合う仲間！うんなんボラカフェ～地域助け合いプロジェクト～ 災害ボランティア編を開催し、誰もが安心して「しあわせ」に暮らすことのできる地域福祉活動づくりを目指した。

実施日／会場	7/2 三刀屋健康福祉センター会議室
開催の目的	昨年度、雲南市災害救援ボランティアセンター活動に関わっていただいた方々との“つながり”を構築し、今後の活動につなげるために開催する。
参加者	・ボランティア 4人 地域自主組織 2人 ・市行政・市社協：6人 計 12名
内容	(1) 報告①「令和3年7月豪雨災害の対応状況等について」 (2) 報告②「災害救援ボラセンの活動状況について」 (3) 意見交換・情報提供

- ・「音訳ボランティア代表者連絡会議」を開催し、今年度の取り組みについての意見交換を行い、その方向性を定め共有した。

実施日／会場	9/22 下熊谷交流センター
開催の目的	市内 6 つの音訳ボランティア団体が相互の連携を深め、効果的なボランティア活動を進めるために開催する。
参加団体	・大東町：朗読ボランティアさくらの会 ・加茂町：朗読ボランティアひばりの会 ・木次町：朗読ボランティアともしび会 ・三刀屋町：朗読ボランティアこだまの会 ・吉田町：音訳ボランティアこもれび ・掛合町：音訳ボランティアほほえみ
内容	(1) 令和3年度事業報告と現況について (2) 意見交換 令和4年度の研修会について 活動における成果・課題・問題点 利用者の声紹介（加茂：佐藤さん、掛合分校高生）

- ・上記の意見交換から、市域の音訳ボランティア研修会を開催した。

実施日／会場	11/22 三刀屋健康福祉センター
開催の目的	音訳技術の向上とボランティア同士のつながりづくり
参加者	・各音訳ボランティア団体会員 23 人、行政 1 人、社協 4 人 計 28 人 (一部オンライン参加：吉田・掛合支所、田井交流センター)
内容	(1) 研修 「聞き取りやすい音訳方法について」 島根ライトハウスライブラリー 藤原理晴 氏 (2)利用者の声の紹介（木次町：小池様、三刀屋町山根様） (3) 情報交換

- ・有償助け合い団体への聞き取り調査より、下記の内容で団体のコーディネーター一等情報交換会を実施した。

実施日／会場	2/24 木次支所
開催の目的	コーディネーター同士のつながりを深め、協働実践のきっかけをつくる
参加者	・各団体コーディネーター等6人、障がい相談支援専門員1人、社協3人 計 10 人
内容	(1) 自己紹介 (2)研修 「障がい相談支援専門員の役割」 (3)意見交換

ウ ボランティア保険の取り扱い状況 合計：43件

- ・ボランティア活動保険 26件 (263人) ボランティア行事用保険 9件 (227人)
- 福祉サービス総合補償 8件 (521人) 送迎サービス補償 0件 (0人)

#### 4 住民参加による地域生活支援

##### □ 支援目標

地域自主組織、ボランティア活動実践者、行政、関係機関等による協働の場を形成し、参加と協働の相乗効果を発揮した事業を展開する。

###### (1) 福祉サービスの融合、開発、確保

###### ① 見守りに資する配食サービス事業 (1食 540円 月～金)

- ・地域の福祉ニーズに応じた地域生活を支援するため、地域自主組織と社協との連携実施方式により自主事業として展開した。

区分	実利用者数	延べ食数	提供回数	ボラ延協力回数	ボラ実人数
65歳以上	125人	11,388食	3,991回	4,531回	169人
65歳未満	3人	233食			
合計	128人	11,621食			

- ・このうち自主組織が主体的に実施している地区（大東・幡屋・阿用・八日市・三新塔・下熊谷・新市・三刀屋・飯石・鍋山・中野） 11地区

区分	実利用者数	延べ食数	提供回数	ボラ延協力回数	ボラ実人数
65歳以上	51人	5,161食	1,878回	2,324回	70人
65歳未満	2人	86食			
合計	53人	5,247食			

- ・地域自主組織とのネットワーク会議開催状況（対象：新規利用者）

	大東	加茂	木次	三刀屋	掛合	合計
ネットワーク会議	13件	9件	5件	5件	7件	39件
会議参加人数	84人	41人	27人	27人	36人	215人

###### ② 郵便による見守り事業

- ・郵便局とボランティアとの協働で、お便りを通じた対象者（高齢者単身世帯等）との交流と配達の際の声かけを行い、安心・安全な地域生活を支援した。

区分	事業名	協力団体数	配布回数(週・月・年)	利用者数	延利用者数
大東	まめなかね通信	21団体	12回(月2回)	43人	596人
加茂	友愛はがき	2団体	毎週水曜日	12人	533人
木次	愛のおたより推進運動	19団体	24回(月2回)	57人	1,126人
三刀屋	愛の絵てがみ運動	1団体	1回(8月、1月)	118人	227人
掛合	ふれあい安心郵便	16団体	12回(月1回)	45人	544人

###### ③ 音訳広報事業

- ・市内6町の音訳ボランティアグループとの協働で、市報等の音訳CDを作成・配布し、音声による情報取得を必要とする方の地域生活を支援した。
- ・音訳機械の更新にあわせ、機械操作の研修を圏域ごとに行い利用者が聞き取りやすいCD作成に取り組んだ。

	大東	加茂	木次	三刀屋	吉田	掛合	合計
実利用者	2人	4人	3人	8人	3人	3人	23人
ボランティア	12人	8人	16人	18人	19人	14人	87人

#### ④ 地域子育て支援

- ・地域の関係機関と協働で子育てサロンを開設し、子育て家庭が地域のつながりの中で支え合い育まれるよう地域ぐるみで支援した。

福祉圏域	サロン名	開催状況	当事者延参加数	ボラ延参加数
吉田	あい♪あいくらぶ	9回	28人	34人

#### ⑤ フードドライブ

- ・関係機関や事業所等より食糧の寄付を受けた。 実績 61件 3,909点

#### ⑥ 子どもへの学習支援

- ・スクールソーシャルワーカー（SSW）との意見交換をし、実態把握に努めた。

### 5 民生児童委員議会の活動支援

#### □ 支援目標

地域福祉活動を推進するパートナーである雲南市民生児童委員協議会との協同実践を目的として、その活動を支援する。

#### (1) 雲南市民生児童委員協議会活動支援

- ・本所担当として事務局業務の各会務運営と連絡調整を実施した。
- ・理事会 2回、代議員会 1回、監査会 1回、女性委員代表者会 1回、全員研修会 1回、新任研修 2回、6地区法定民児協代表者会議 4回、会長会 1回、正副会長会 2回、主任児童委員サロン研修会含む 4回、専門部会 5回（総務企画部会：3回、地域福祉部会：1回、児童委員活動推進部会：1回）

#### (2) 6単位法定民生児童委員協議会活動支援

- ・支所担当として事務局業務の定例会議運営や連絡調整等を実施した。

各法定民児協定例会議・全員協議・地区会議等 実施状況					
大東	加茂	木次	三刀屋	吉田	掛合
12回	12回	6回	8回	6回	8回

### 6 雲南市共同募金委員会の運営

#### □ 実施目標

寄付者と活動者の思いをつなぐ“相互の共感”を大切にした、赤い羽根共同募金運動を展開する。

#### (1) 雲南市共同募金委員会の運営

##### ・会務の運営状況

会議名	審議内容	開催日
会計監査会	・(R3)会計監査等	4/14
審査委員会	・(R3)助成事業評価 (R4)助成事業について	5/25、2/16
専門委員会	・(R4)募金運動のふりかえり	1/20
運営委員会	・(R3)事業・決算報告 (R4)助成について ・(R4)事業計画、予算 (R5)助成計画	6/9、3/20

#### ① 赤い羽根共同募金運動の推進（10月1日～12月31日）

▶令和4年度一般募金実績：10,395,218円（前年対比 132,273円増）

一般募金内訳

単位：円

戸別募金	街頭募金	法人募金	学校募金
7,003,422	406,277	1,653,090	257,216
職域募金	イベント募金	その他	合計
853,296	11,400	210,517	10,395,218

#### ② うんなん手のひら募金の実施（運動期間：1/1～3/31）

▶今年度の参加団体の募集（7/25～8/26）を行ったが、参加団体は無かった。

- ③ 募金百貨店プロジェクトの推進及び募金付き自動販売機の設置推進
  - ▶市内パートナー企業・事業所 29 事業所 (新規事業所: 3 事業所)
  - ▶自販機設置台数 36 カ所
- ④ 法人・店舗等のご協力の輪の拡大
  - ▶「年間を通じた赤い羽根共同募金箱」の設置市内設置数 92 カ所
- ⑤ 雲南市を良くするしくみ「赤い羽根募金」情報誌の自治会配布 (回覧)
  - ▶お寄せいただいた募金が、市内の自主組織福祉部のどんな活動に活用されているのかを写真付きで紹介した情報誌を作成・配布し、募金運動への協力をお願いした。

## 7 第4期雲南市地域福祉活動計画の進行管理

### □ 実施目標

地域福祉の充実を目指して、雲南市総合保健福祉計画と連動する、民間福祉活動の行動計画である第4期雲南市地域福祉活動計画を推進する。

#### (1) 第4期雲南市地域福祉活動計画（3年目）の進行管理

- ① 市活動計画推進検討会議（理事地域福祉部会）における、中間年度（3年目）の検証
  - ・推進検討会議に向け7月から活動計画進行管理作業部会を立ち上げ、計画の進行状況のふりかえりを行い、3年目の検証を行った。

### 3 在宅福祉事業部門

#### ○ 部門ビジョン（目指す姿）

その人らしいふだんの暮らしを支えるために一人ひとりの暮らしに寄り添う高品質な在宅ケアを実践し追求する在宅福祉部を目指します

- ▶市場原理が働きにくい中山間地域における介護サービスのセーフティーネットとしての役割を担います。
- ▶社協らしい在宅福祉の具現化に向けて、他部門・他機関とも連携した地域生活支援に取り組みます。
- ▶「住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられること＝ふだんの暮らし」を支えるために、一人ひとりを見つめた、高品質な在宅ケアを実践します。

#### 【総評】

- 成果
- ・地域福祉部と連携し、市内高等学校2校の授業協力を実施した。
  - ・感染症の影響を大きく受けたが、感染症予防委員会、管理職、管理者を中心に保健所と連携して感染対策に取り組むことにより職員の実践力が向上した。
- 課題
- ・介護人材確保。
  - ・介護予防事業の利用者拡大。

### ＜重点実施項目＞

#### 1 経営基盤の強化

事業所単位の利用（収入）目標を達成するため、経営への意識を高め経営基盤の安定を図る。

#### 【実施状況】

経営基盤の安定を図るため、感染対策を行い外部講師を招いた研修会、委員会の開催、多職種連携会議等に参加した。

管理職、管理者による経営会議を開催し、経営状況の分析、改善について協議した。また、新年度予算編成についても協力して行った。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症による家庭内感染により、利用者数が減少し経営に大きく影響した。

特に注意したことは、利用者家族の健康状態の確認だった。家族が体調不良により自宅待機中やPCR検査を受け結果が出ていない状況でありながらサービスを利用される方があった。事業所の感染症予防には、家族に対し感染症予防を意識してもらうように働きかけることも重要だと感じた。

#### ・通所介護事業所

陽だまりの家では、4月以降、毎日利用の利用者が家族の介護負担増を理由に施設入所され利用者（回数）が減少した。また、利用者、職員が新型コロナウイルスに感染し休業（8/6～8/10・12/12～12/13）した。経営改善を図るため居宅介護支援事業所へ空き状況の紹介、職員のスキルアップを目的にユマニチュードを受講するなどしたが、利用者を増やすことはできなかった。認知症が悪化すると、家庭の介護負担増から入所を希望されるご家族が増えている。

・訪問介護事業所

登録者数は前年と同様だが、利用者家族、本人が新型コロナウイルスに感染、濃厚接触者となり利用が長期に渡り減少した。また、体調不良による急なキャンセルなど経営に影響を与えた。

・訪問入浴

コロナ禍であり在宅での終末を希望される方へのサービス提供が増えたが、利用期間が短く体調の変化により急な中止となることもあり利用が安定しなった。

大東事業所職員感染により 2 日間休業 (12/12~12/13)

・居宅介護支援事業所

入所、死亡により在宅生活に繋がらず契約するが実績に反映しないケースがあった。

・小規模多機能居宅介護事業所

登録者数は目標に近いが、前年度と比較すると介護度の高い利用者が減少した。

利用者の感染により通所サービスを休業 (8/1~8/6) したが、訪問、宿泊サービスは独居認知症利用者に対し雲南保健所の指導を受け感染拡大防止を図りながらサービスの提供を継続した。

・その他 7 月市内大雨警戒レベル 3・4 発令時、9 月台風 11 号・14 号では利用者、職員の安全確保のため時短営業とした。

在宅福祉部管理職、管理者合同経営会議開催 10 月 2 月

令和 4 年度社会福祉法人会計実務研修 (中級コース) 全事業所長受講 12 月

## (1) 目標稼働率の達成状況

① 通所介護事業

- ・おおぎ：目標 24 名以上 実績 22.4 名
- ・みとや：目標 24 名以上 実績 21.8 名
- ・かけや：目標 22 名以上 実績 23.0 名
- ・陽だまりの家：目標 9 名以上 実績 7.0 名

② 訪問介護事業

- ・おおぎ：目標 25 名以上 実績 21.8 名
- ・みとや：目標 23 名以上 実績 17.8 名
- ・かけや：目標 10 名以上 実績 10.0 名

③ 訪問入浴介護事業

目標 3 名以上 実績 2.9 名

④ 居宅介護支援事業所

- ・ケアマネージャー 一人当たり

おおぎ：目標 35 人以上 実績 33.4 人

かけや：目標 35 人以上 実績 37.6 人

みとや：目標 35 人以上 実績 28.7 人

⑤ 小規模多機能型居宅介護 (登録利用者)

目標 29 人 実績 27.5 人

## (2) 高品質な介護サービスの提供

① 介護基礎能力の習得

- ・介護技術：優しいケア～持ち上げないケア～ 移乗介護

6 月 7 日 掛合事業所 福祉用具を使用した移乗動作

6 月 16 日 抱えない介護の重要性について

9 月 27 日 抱えない介護 立ち上がり・方向転換

- ・医療的ケア：異常の早期発見と報告・緊急時の対応・終末期ケア  
在宅医療介護連携推進事業高齢者住まい看取り研修会 島根県地域包括ケア推進室  
6月14日 大東 三刀屋 ふれあいセンター  
6月15日 掛合 ふれあいセンター
- ・認知症介護：コミュニケーション技法 「認知症介護基礎研修」受講  
認知症介護基礎研修 認知症介護研究研修センター 入間 5月17日  
認知症介護基礎研修 認知症介護研究研修センター 掛合 5月30日  
ユマニチュード基礎研修1 4事業所職員受講 6月17日  
認知症介護基礎研修 認知症介護研究研修センター 三刀屋 7月5日・12日
- ・対人援助：対人援助技法  
認知症の方への関わり方 奥出雲病院 遠藤医師 7月8日  
対人援助コミュニケーション～利用者・家族とのかかわり方 12月9日～1月10日
- ・排泄ケア  
排泄ケアを通じて実現する社会参加 ユニ・チャーム株式会社 有田氏 7月14日  
最新のオムツ事情 ユニ・チャーム株式会社 有田氏 9月16日  
おむつマイスター養成 認定者12名 座学4回 実技試験1回 3月6日終了
- ② 虐待防止
  - ・委員会開催：2ヶ月に1回開催し身体拘束廃止・虐待防止対策の確認と部内外研修に参加した。
  - ・不適切ケアに対する自己点検を定期的に実施した。
- ③ 地域包括ケアに向けた取り組み
  - ・住み慣れた地域での暮らしが維持できるように地域、医療と連携し、利用者や地域に求められるサービスの提供に努めた。
  - ・多職種連携会議、地域ケア会議等に参加して地域課題に対する提案を行った。

5月18日 提案内容  
医療依存度の高い利用者が在宅生活を希望された場合、短期入所の受け入れ可能な施設が少ない現状のなか、家族は在宅で行う処置に対し不安や負担感がある。  
要介護状態になっても外出したいが、環境が整っていない、福祉タクシーも少なく高額である。

8月10日（オンライン）  
訪問診療を受けている要介護者の新型コロナウイルスワクチン4回目接種の往診で対応して欲しい。

3月17日（市役所）地域ケア会議事例発表
- ④ 事例発表
  - ・取組み事例を通じて、目指すべき姿の達成の仕方を共有し利用者、家族に対し質の高いサービスを安定的かつ継続的に提供できることを目的に実施した。

5月27日 令和3年度取組み報告会 在宅看取り 業務改善 尿路感染症対応等  
11月17日 島根県老人福祉施設研修大会 訪問介護事業所みどりや事例発表  
※令和5年度中国大会事例発表に推薦
- ⑤ 部内連係  
各事業所が協力して業務改善、課題解決に取り組み連携の強化を図った。
  - ・通所介護事業所連携会議：陽だまりの家感染症により休業中、感染拡大となった原因、マニュアルの見直し等の改善対策と事業再開に向けて意見交換した。
  - ・居宅介護支援事業所連携会議 10月13日

### (3) 法令遵守の徹底

集団指導資料による制度・加算算定要件について全事業所の点検を実施 4月12日

- ① 管理職による法令遵守に対する点検を実施して、必要時、指導を行う。
- ② 事業管理者は定期的に加算算定要件を点検し管理職へ報告する。

### (4) 相談・苦情への対応

福祉サービス苦情解決研修（10月14日オンライン）に参加、苦情解決について学ぶ。

- ① 苦情相談窓口の設置・第3者委員を配置して、必要時には苦情検討委員会を開催して助言を仰ぐ。

苦情受付状況

- ・相談支援事業所みとや

就労体験を終了した利用者との面談後、相談員の助言、提案に納得がいかない、担当者を交代させて欲しいと苦情があった。

- ・訪問入浴介護事業所おおぎ

利用者宅訪問2日後に職員の感染が判明したため、家族へ報告、家族より以後の対応を含め謝罪するよう苦情があった。

- ② 推進運営会議、家族会の開催、アンケートを実施して関係者からの相談、苦情に対し速やかに対応を行う。

陽だまりの家 6月24日 1月20日 開催

陽だまりの家介護者のつどい 11月5日 開催

ふれあいセンター 10月26日開催

その他、感染拡大期と重なり書面にて運営状況、情報提供を実施した。

## 2 感染症対策の徹底

### 【実施状況】

在宅サービス事業所の特徴として感染経路が複雑であり、高い感染リスクから職員の健康守り事業を継続するため、雲南保健所衛生指導課と連携して定期的な情報交換、指導を受け感染予防に必要な知識、技術の習得に努めた。

#### (1) 委員会開催：2ヶ月に1回開催

- ① 雲南保健所との情報交換を実施

5月19日 雲南保健所 保険増進課 通所介護利用者送迎時感染対応

6月23日 雲南保健所 衛生指導課 通所介護利用中有症状者への対応

7月21日 雲南保健所 衛生指導課 訪問系事業所訪問手順書見直し

8月5日 雲南保健所 衛生指導課 訪問系事業所訪問手順書見直し

10月4日 雲南保健所 健康増進課 療養期間変更に伴う解釈と対応

12月6日 雲南保健所 健康増進課 BCP点検・見直し

1月12日 雲南保健所 健康増進課 ガウンテクニック手技再確認

- ② 事業継続計画、マニュアルの点検、見直し

8月8日 臨時感染症予防委員会 デイサービス感染症マニュアルを見直した。

#### (2) 研修会開催：年間2回以上開催（感染症予防委員会主催）

- ① 感染症予防に関する知識、技術の習得

ふれあいセンター全体研修会 コロナ・結核・食中毒 5月6日～31日

三刀屋事業所全体研修 コロナ・結核・食中毒 5月19日 6月2日

大東事業所全体研修 コロナ・結核・食中毒 6月29日

掛合事業所全体研修会 コロナ・結核・食中毒 6月1日～30日

在宅福祉部訪問系職員全体研修 7月26日

高齢者施設等における新型コロナウイルス感染対策研修会 10月20日

### 3 安全（災害・交通安全・労働災害）対策の徹底

#### 【実施状況】

昨年の水害後に取りまとめた危険個所の再確認、送迎方法等について介護予防担当者会議、介護保険事業管理職会議において再確認して災害への備えを行った。

#### 対応状況

7月 16日 13:26 雲南市警戒レベル4 はつらつ・デイサービス時短営業  
7月 19日 09:09 雲南市警戒レベル3 はつらつ・デイサービス時短営業  
台風11号 デイサービス送迎時間の調整、時短営業 (9.6)  
台風14号 デイサービス時短営業 (9.19)  
12月 23日 大雪警報発表 デイサービス等時短営業 はつらつ休業  
1月 25日 大雪警報発表

#### (1) 災害対策

- ① 消火、避難訓練の実施：関係機関等の協力を得て年間2回実施
  - ・掛合介護事業所 5月 19日 参加者：掛合総合センター職員 職員
  - ・大東介護事業所 6月 21日 参加者：雲南消防署 支所 事業所職員 図書館職員 ほたるハウス職員 利用者
  - ・三刀屋介護事業所 10月 5日 参加者：雲南消防署予防課 事業所職員  
3月 18日 参加者：職員 利用者
  - ・ふれあいセンター 11月 14日 昼火災想定 11月 21日 夜間火災想定
- ② 防災研修：年間1回以上開催
  - ・福祉専門職と考える災害時の要配慮者対策について 7月 20日
- ③ 交通安全  
安全運転管理者等の指導により研修会を開催した。
  - ・掛合事業所交通安全運行研修会 5月 30日 講師：安全運転管理者
  - ・ふれあいセンター交通安全研修会 5月 23日 講師：安全運転管理者
  - ・三刀屋介護事業所交通安全研修会 5月 23日・30日 講師：安全運転管理者
  - ・大東介護事業所交通安全研修会 7月 19日 講師：大東駐在所
- ④ BCP策定  
災害時におけるBCPについて、令和5年度中の策定を目指し管理職全員がセミナーを受講して準備した。

### 4 地域交流・貢献

#### 【実施状況】

実施にあたりボランティア希望者、学校、事業所間において感染予防について協議を行い、受け入れ方法について雲南保健所衛生指導課に確認し実施した。

#### (1) ボランティアの受け入れ

- ① 感染症の状況把握と対策を行い、交流を図り、福祉活動への理解と協力を得る機会を設けた。
  - ・三刀屋介護事業所 トリニティカレッジ出雲1年生 1名 6月 4日～
  - ・大東介護事業所 トリニティカレッジ出雲1年生 2名 6月 4日～  
広島県立大学 学生1名 8月 15日～  
大東中学校 3年生 3名 8月 15日

## (2) 職場体験学習・実習生の受入れ

- ① 実習指導者・実習指導担当者により、体験学習、事業所実習の目的が達成できるよう計画書を作成し指導を行う。

※令和4年度介護福祉士実習指導者2名養成 各事業所に1名以上配置

- ・三刀屋・掛合・大東事業所 奥出雲リハビリテーション学院 6月13日～
- ・三刀屋事業所 トリニティカレッジ出雲 実習 デイサービスセンターみとや・訪問介護事業所みとや 6月14日～6月17日
- ・職場体験 三刀屋中学校3年生 7月6日～8日
- ・ホームケア島根 職場見学 デイサービスセンターみとや 8月9日
- ・ホームケア島根 実習 デイサービスセンター陽だまりの家・デイサービスセンターみとや 9月16日～10月21日
- ・掛合事業所 島根リハビリ学院 実習 9月26日～9月30日
- ・三刀屋事業所 島根リハビリ学院 実習 9月26日～9月30日
- ・大東介護事業所 職場体験 大東中学校3年生 10月12日～14日
- ・掛合介護事業所 職場体験 掛合中学校3年生 10月12日～14日
- ・三刀屋介護事業所 実習 島根リハビリテーション学院 10月24日～11月11日
- ・島根県介護支援専門員実務研修実習 5年1月26日～2月27日 居宅みとや
- ・京都府立大学大学院公共政策学研究科 5年2月21日～22日 大東はつらつ

## (3) 部門間連係による出前講座・授業への協力を実施する

- ・5月31日 サロンリーダー連絡会 三刀屋交流センター
- ・6月8日 島根県人権啓発推進センター 雲南合同庁舎
- ・6月20日～島根県立三刀屋高等学校掛合分校「生活と福祉」授業協力 10回
- ・7月27日 地域福祉部感染症予防勉強会 配食 感染症予防委員会
- ・8月23日 出雲養護学校雲南分教室3年生進路指導相談会
- ・10月3日 令和4年度介護支援専門員専門研修兼更新研修
- ・10月17日～島根県立大東高等学校「生活と福祉」授業協力 4回
- ・10月18日 雲南市医療介護連係室 上久野地区幸雲体操評価
- ・10月20日 雲南市立阿用小学校5・6年生 福祉教育
- ・1月31日・2月1日 令和4年度これからのサロンのカタチを考える学び合い会議
- ・2月14日 令和4年度雲南分教室3年生移行支援会議

## 5 人材育成・定着・確保

### 【実施状況】

第2期中期経営計画で掲げた在宅看取りの一翼を担える在宅介護事業所を目指し事業所長が計画した研修会（介護技術・排泄ケア・認知症ケア）を開催した。併せて知識と技術を学び実践する充実感と利用者、家族からの反応、地域、学校への貢献を通じて職業的自尊心を育むための取り組みを行い人材の成長、定着に向けた環境が整うよう取り組んだ。

## (1) 職業的自尊心を育む

- ① 自分の仕事が他者に喜んでもらえるための準備としての基礎能力習得

- ・抱えない介護：外部講師の協力を得て人体の構造、高齢者の特徴、福祉用具の使用方法について学び利用者の褥瘡、拘縮、腰痛予防に取り組んでいる。

・排泄ケア：ユニチャーム株式会社の協力により高齢者の尿漏れの実態やその対策を学び、利用者、家族へ情報提供を行うなどした。また、はオムツの正しい組み合わせによるADLの向上、汚染防止、コスト管理についても学ぶことができた。その他、ユニチャーム株式会社の協力を得て、おむつマイスターを12名養成することができ、資格を取得した職員の励みとなり、実際に利用者家族に対しオムツに関する相談に対応している。

・認知症ケア：ユマニチュード基礎研修へ4事業所から各1名が受講して事業所内の技法の普及に取り組んだ。

・島根県理学療法士会「雲南圏域プラスワン研修会」 9月9日 大東事業所

・地域福祉部・在宅福祉部学び合い会議 9月27日

福祉教育の意義を共有・認識することで、協同実践できる体制をつくることを目的に学んだ。

② 自分の仕事が社会に認められる質にあるか習得した能力の発揮、根拠に基づく質の高い科学的ケアの提供

・抱えない介護：福祉用具を使用した表皮剥離、拘縮、腰痛予防を実践

・認知症ケア：ユマニチュードの技法を用いた関わりによる関係性づくりの実践

・排泄ケア：排泄用品の選定による立位、座位姿勢の保持、肌トラブル、誤嚥、転倒予防の実践

③ 自分の働きが同僚や上司に認められる内容にあるか確認できるよう、利用者、家族からの肯定的な応答（良好な関係性）、職場や社会貢献の反応を得られる出前講座、授業への協力

実施状況

・島根県人権啓発推進センター 雲南合同庁舎 6月8日

・三刀屋高等学校掛合分校 家庭科選択授業「生活と福祉」 6月20日～12月14日 10回

・大東高等学校 家庭科選択授業「生活と福祉」 10月17日～12月5日 4回

・雲南市介護人材確保事業（大東高校1年生介護授業） 3月9日 1回 77名

## （2）OJTの実施

① 新規採用職員に対して1年目は3ヶ月ごと、2年目は半年ごとに指導者より、実際の仕事を通じて指導を受け、知識と技術を身に付ける。

三刀屋介護事業所1名 医療現場での経験があり、利用者とのコミュニケーション、冷静な状況判断はできている。今後は介護技術面での技術向上を目指せるよう協力したい。本人より定期的に評価があり、相談しやすい環境であり困ったことはない。

## （3）ハラスメントへの対策

① 必要な情報の周知徹底

② ストレスチェックの実施

③ 研修会参加

・コンプライアンス・ハラスメント研修会 掛合事業所 5月28日

・パワーハラスメント防止措置研修 大東・三刀屋・掛合・入間事業所 9月28日

#### (4) 福祉用具の導入

##### ① 職員の身体的負担軽減と腰痛対策を図る

- ・6月16日 抱えない介護全体研修会 講師 デイケアはまもと理学療法士
- ・9月27日 抱えない介護全体研修会 講師 デイケアはまもと理学療法士

#### (5) 業務改善

各事業所ごと日課を見直し事務作業の効率化、休憩時間確保に取り組む。

##### ① 業務の平準化と効率化を図る。

- ・掃除方法の見直しにより業務負担軽減

#### (6) 処遇改善

##### ① 算定要件を遵守

- ・介護職員等処遇改善加算Ⅰ
- ・介護職員等ベースアップ等支援加算申請 (R4.10申請)

### ＜実施事業内容＞

#### 1 在宅福祉課

##### 【実施状況】

・介護の入門的研修開講に向け、雲南広域連合業務委託契約締結、飯南町社会福祉協議会、奥出雲町社会福祉協議会への後援、市内介護、障がい施設へ講師を依頼した。

また、今年度は就労相談の他、就学相談の時間を設けて欲しいとの依頼あり島根県雇用政策課と調整を行い実施した。

・介護予防事業は、今年度より新たなプログラムを始め介護予防の効果を高めることを目的に取り組んだ。利用者の確保のため、民児協定例会等での事業紹介、社協だより、ケーブルテレビ等で広報を行ったが利用者の増加には至らなかった。

また、新型コロナウイルス感染症により加茂、大東、掛合で事業を休止した。

加茂 7月28日～8月5日 感染者：利用者2名 職員2名

大東 8月3日～8月4日 感染者：利用者1名

12月12日～23日 感染者：利用者3名 職員1名

掛合 8月26日 感染者：職員1名

大雪警報のため、12月23日すべてのはつらつを休業した。

1月24日 大雪警報 時間短縮 1月25日 加茂以外休業

##### (1) 介護の入門的研修の開催

###### ① 福祉・介護人材の確保・育成を目的として研修会の実施

介護に関心のあるすべての方（高校生を含む）を対象に21時間（3日間）の講義・実技を実施。

開催日時：11月25日～27日 受講定員：25名

後援：雲南市・飯南町社会福祉協議会・奥出雲町社会福祉協議会

###### ② 就労希望者には就労支援機関（介護労働安定センター・ハローワーク等）による就労相談・職場見学・体験等の支援を行う

就労相談：介護労働安定センター

就学相談：島根県雇用政策課

## (2) 介護予防はつらつ事業（介護予防・日常生活支援総合事業 通所型サービスA）

### ① 営業日・営業時間

営業日	月曜日から金曜日（祝日を除く）
営業時間	8時30分から17時30分
サービス提供時間	9時30分から15時00分
実施地区	雲南市全域 (大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田町・掛合町)
実施会場	市内23地区の交流センター等
実施対象者	事業対象者 要支援1・2
実施回数	一人あたり 月3回から4回
利用料金	・基本料金:月定額料金(1割負担:1,388円 2割負担:2,776円、3割負担:4,164円) ・昼食・茶菓代 1回600円

### ② 実施プログラム

- 運動器の機能向上：新はつらつ（セラバンド）体操、体力測定（運動機能評価）  
事業担当者への体操指導実施後、6月より実施した。  
※各会場へ理学療法士等を派遣して体操指導、効果検証のため 10月よりアンケートを実施した。
- 栄養改善：9月から栄養士による指導、評価を実施した。
- 口腔機能の向上：8月～9月 歯科衛生士会の協力により全地区実施した。
- 認知症予防：脳トレ、認知症予防体操を実施した。
- 閉じこもり予防：参加者全員の月4回の利用促進のため声掛けを中心に行った。
- 健康講話：介護予防への意識向上を目的として医師による健康講話を開催予定だったが、上半期新型コロナウイルス感染拡大により中止した。  
12月22日から医師7名が地区を担当し都合のつく日を予定表に書き込む形で医師との交流が始まる。利用者からは普段の暮らしを送るうえで健康のために注意すること、病気に関する心配ごとなど毎回、たくさんの質問があった。また、医師からは地域での暮らしの様子がわかり、診療の参考となり良かったと話されていた。
- ココからプログラム：県立広島大学保健福祉学部「ココから教室～ココロもからだも健康に～」効果検証に協力した。

協力期間：令和4年8月～令和5年3月 対象地域：吉田・掛合地区

内容：県立広島大学健康福祉学部介護予防プログラム開発を目的として、「フレイル高齢者の社会参加を改善する集団セルフマネジメントプログラム」の効果検証  
このプログラムを実施した、吉田、掛合地区では、話す、聞く、褒めるという基本が定着し、以前よりもお互いの関係性の向上や下肢筋力が向上したことを確認できた。

### ③ 地域交流

交流センター職員、ボランティアの協力を得て高齢者の生きがいと社会参加の促進を図り、社会的孤立感の解消や自立した生活の助長により要介護状態になることを予防するために計画したが、上半期、新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止した。

- 三刀屋高等学校掛合分校3年生 11月9日 12月14日 はつらつ
- 海潮こども園 11月30日

#### ④ 事業紹介（見学）

地域自主組織、診療所等へのパンフレットの配布、民生児童委員協議会定例会にて事業紹介を行った。

- ・雲南市民生児童委員協議会理事会 5月13日
- ・大東地区民児協 6月6日 加茂地区民児協 6月16日 木次地区民児協 6月23日
- ・三刀屋地区民児協 7月12日 吉田地区民児協 7月4日
- ・NHKしまねっと 12月9日 介護予防プログラム紹介

#### ⑤ 担当者会（全体研修会）

- ・第1回はつらつ担当者会 4月22日 事業計画について  
第2回はつらつ担当者会 6月29日 事業実施状況について  
第3回はつらつ担当者会 8月24日 事業実施状況について
- ・第1回介護予防はつらつ全体研修会 6月29日  
内容：雲南市の高齢者に多い病気とその付き合い方（介護予防）  
講師 雲南市立病院 太田先生  
元気はつらつ体操について 講師 デイサービスセンターみとや 菅田PT
- ・第2回介護予防はつらつ全体研修会 11月1日（予定）  
内容：1. 排泄ケアを通じて実現する社会参加  
講師 ユニ・チャーム株式会社担当者  
初期の尿漏れに対し適切な対応を行うことで閉じこもりを予防し、認知症、うつ症状の発症を予防する。  
2. 「ココから教室～ココロもカラダも健康に～」  
講師 県立広島大学保健福祉学部 高木准教授  
ココから教室効果検証中間報告

## 4 施設福祉事業部門

### ○ 部門ビジョン（目指す姿）

一人ひとりの心安らぐ住まいであるために

その人らしい生き方・生活を尊重した施設ケアを実践し追求する

施設福祉部を目指します

- ▶社協らしい施設福祉の具現化に向けて、他部門・他機関とも連携した「施設の社会化・地域化」に取り組みます。
- ▶施設での暮らしが「自分らしい輝き」の基盤となるよう、その人らしい生き方が実現できる、地域とのつながりを重視した「心安らぐ住まい」としての、高品質な施設ケアを実践します。

#### 【総評】

成果  
・コロナ陽性者が発生したが、ゾーニングを行うとともに職員が高い意識を持って感染対策を徹底することで感染拡大を防ぐことができた。  
・施設で行っている取組についてWeb研修などで発表することができた。

課題  
・基礎疾患の悪化や尿路感染症など、入院による空床の増加  
・人材不足や物価高騰の中での安定経営  
・災害や感染症拡大時におけるリスク管理と対応の強化

### <重点実施項目>

#### 1 安定した経営基盤の確立

##### (1) 目標稼働率の達成

① 介護老人福祉施設 えがおの里	目標：95%以上	実績：90.9%
② 介護老人福祉施設 えがおの里ユニット	目標：95%以上	実績：94.7%
③ えがおの里短期入所生活介護事業所	目標：90%以上	実績：93.0%

##### ○ 稼働実績

※（ ）内数字は令和3年度末実績

事業名	延利用者数	稼働率	平均介護度
えがおの里 (従来型)	9,968 (10,396)	90.9% (94.9%)	4.34 (4.03)
えがおの里 (ユニット)	13,829 (13,758)	94.7% (94.1%)	4.40 (4.50)
短期入所生活介護 (空床利用含)	2,037 (1,987)	93.0% (90.7%)	2.90 (2.90)

##### ○ 介護度別利用状況

令和5年3月末

	性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
従来型	男性	0	0	1	2	6	9
	女性	0	0	1	13	6	20
小計		0	0	2	15	12	29

(空床1)

	性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
ユニット	男性	0	0	0	2	4	6
	女性	0	0	3	16	15	34
小計		0	0	3	18	19	40

介護度4以上の利用者割合 従来型：93.0% ユニット型：93.0%

## ○出身地別利用状況

令和5年3月末

	掛合	吉田	三刀屋	木次	大東	合計
男性	3	2	8	0	2	15
女性	23	11	13	3	3	54
小計	26	13	21	3	5	69

(空床1)

※平均年齢 施設平均：89.5歳 男性：87.5歳 女性：91.5歳

最高年齢 男性：93歳 女性：106歳

## (2) 異常の早期発見・治療により空床日減少への取り組み

- 毎日、一日2回の検温を実施して健康観察を行い、異常の早期発見につながった。
- まめネットの運用により、えがおの里と掛合診療所、雲南市立病院とのネットワークが整っており、医師への連絡、相談、指示受けなど迅速な対応を継続しているが、入院者数の増加により稼働率にも影響を及ぼした。
- のべ入院者数：66名 のべ入院日数：1573日 平均入院日数：23.8日

## (3) 誤嚥性肺炎の予防

- 1日1回以上健康（口）体操のDVDを流し、食事前に実施し誤嚥の予防対策を行った。
- 誤嚥性肺炎を発症し入院した件数は9件（前年度13件）。誤嚥性肺炎予防をより意識化する為、バランスチャート（K T B C）を定期担当者会議で協議・共有した。チャートにおいて減点項目は、早い段階から改善が図れるよう、ケア変更に結びつけた。
- 口腔ケアについては、経口摂取の利用者は毎食後、経管栄養の利用者は、毎食前に実施した。
- 歯科衛生士等との連携により口腔状態に応じたケアのために研修会を開催した。  
口腔ケア勉強会（掛合診療所歯科診療科長）小池尚史医師 8月18日
- 島根県老人福祉施設協議会からの推薦により、第53回中国地区老人福祉施設研修大会にて事例発表した。なお、コロナ禍であったためオンデマンド配信となった。  
(配信期間8月1日～10月31日)

## (4) 尿路感染症の予防

尿路感染症対策プロジェクトにより水分摂取量と排尿量の現状を把握し、職員一人ひとりが意識的に、尿路感染症予防対策をとれるよう多面的なアプローチを行った。入院件数22件（昨年度19件）で、上半期は入院者数が減少していたが、年度後半は発症者が多くなった。引き続き評価、再検討し、対応を更新した。

- こまめな水分摂取：利用者一人ひとりに必要な水分摂取量を割り出し、毎食前後を含め水分摂取の機会を増やした。また、嗜好品（ジュースやスポーツドリンクなど）を促すことができるよう、ご家族にも相談しご協力をいただいた。

- ② 排尿：排尿パターンを確認して排泄を促したり、座位保持が可能な利用者は定期的にトイレ誘導を行ったりした。排泄状況を把握する為、尿量の測定も実施した。
- ③ 清潔：適切な衛生用品の使用し、洗浄を行うなど清潔保持に努めた。
- ④ 知識の習得：尿路感染症の生理学的理解や発生機序を学ぶ研修会を開催し、対策方法の習得を図った。 ユニ・チャーム株式会社 7月5日
- ⑤ 尿路感染症予防の取り組みをユニ・チャーム株式会社が主催するオンラインセミナーにて発表。 2月21日

#### (5) 加算の算定要件に基づく収入の確保

- ・日常生活継続支援加算算定状況 (介護福祉士配置要件及び医療的ケア 15%以上)
  - 従来型：胃ろう造設 7人 咳痰吸引 3人 33% (昨年度：30%)
  - ユニット：胃ろう造設 7人 咳痰吸引 3人 25% (昨年度：22.5%)
- ・お看取り件数 6名 既存：2名 ユニット：4名 (昨年度：11名)

#### (6) 収益の確保と経費節減への意識の醸成

- ① 管理職と係長が参加する月1回の運営会議において、施設の利用状況や稼働率、収支状況などを共有し、全職員に発信して収益確保、経費節減に向けた取り組みを行った。
- ② 消毒液や紙おむつなどの衛生材料の価格が上昇しているため、他社と比較して選択するなどの対応を行った。

## 2 感染症や災害への対応力強化と安全対策

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対策の徹底

- ・感染を持ち込まない、拡げない対策

職員は1日3回の体温計測と行動歴の記録を実施した。マスク、ゴーグルの着用と手指消毒、換気の徹底を行った。

※お看取りのご家族、実習生も同様の健康観察を実施した。

- ・新型コロナウイルス感染症事業継続計画（B C P）の更新

- ・新型コロナワクチン接種 入所者及び職員

4回目 7月25日、26日、9月12日、20日、27日 計133名接種

5回目（2回ワクチン）12月12日、19日、20日、1月16日、17日 計134名接種

- ・D M A Tによる指導 10月28日

#### (2) 避難・消火訓練の実施

- ① 第1回避難訓練（日中火災想定） 6月23日 参加者：掛合広域交番、施設職員  
第2回避難訓練（夜間火災想定） 11月13日 33名参加

参加者：雲南市消防団、掛合広域交番、自治会住民、町内在住社協職員、施設職員

- ② 通報訓練・水消火器訓練 6月9日

- ③ 土砂災害訓練 9月29日 17名参加

#### (3) 不審者対応訓練の実施

3月8日 講師：雲南警察署掛合広域交番 12名参加

#### (4) 危険個所の発見・修理

- ① 月1回衛生委員会に合わせて職場内巡視を実施した。

- ② 労働基準監督署による労働安全衛生検査を受検した。

8月30日受検 結果：文書指摘事項なし。

## (5) 生活事故の予防

- ① 事故防止委員会による「事故発生予防」研修会開催 8月25日 19名参加  
緊急時の対応（窒息について）研修会開催 3月22日 14名参加
- ② 再発防止と注意喚起を目的とした事故発生後の緊急会議開催について、フローチャートを作成し速やかな情報共有を行った。

## 3 質の高いサービスの提供

### (1) 施設サービス計画書（個別機能訓練計画、栄養計画）の充実

- ① 感染予防の観点から、通常の担当者会議に家族の参加はなかったが、事前に電話で様子を伝え家族の要望を確認した。
- ② 看取りケアが開始された利用者の担当者会議は、健康観察を実施した身元引受人にも参加をお願いした。  
利用者の健康状態を共有し、これからの過ごし方について家族の要望を計画書に取り入れ、家族の協力のもと看取り介護を行った。

### (2) 科学的介護情報システム（LIFE）の活用

令和4年7月から科学的介護推進体制加算（II）算定を開始した。提出したデータに対する現時点でのフィードバックはない。今後、フィードバックされたデータを施設内で共有し、科学的根拠に基づいたケアを提供していく。

### (3) 不適切ケア防止への取組み

- ① 利用者より直接不適切ケアの有無について確認するため、利用者参加型のえがお会議を開催した。  
えがお会議開催日 4月27日 5月19日 6月9日 9月22日
- ② 虐待防止・身体拘束廃止委員会等による不適切ケア防止に向けた研修会を開催した。  
9月1日 17名参加

### (4) 専門知識の習得と実践

施設内研修会を開催し、事例検討会等を通じて施設職員の専門性を高め、実践した。

- ① 看取りケアへの取り組み
  - ・看取り件数 6件
  - ・新型コロナ感染防止対策を図りながら、カンファレンスの開催、面会に対応した。
  - ・地域における看取り介護の支援体制を強化するため掛合町多職種連携ネットワークとの連携を図った。

掛合地区多職種連携意見交換会参加：5月18日 2名参加 8月10日 1名参加  
3月15日 1名参加

在宅医療介護連携推進事業高齢者住まい看取り研修会 6月14日 8月18日 3名参加

  - ・多職種連携推進のための研修会 「大切な人のために 私たちにできること」  
事例発表 10月19日 5名参加
- ② 認知症ケアへの取り組み
  - ・虐待防止・身体拘束廃止委員会による研修会を開催した。  
「ユマニチュードについて」 9月1日 23名参加
- ③ 福祉機器の活用
  - ・利用者の2次障害防止と職員の腰痛対策を目的としたリフトの普及のために、各フロアにおいてインストラクターによる指導を行った。

#### ④ 施設内研修の実施

- |                |             |  |
|----------------|-------------|--|
| ・介護保険制度について    | 9月7日～29日    | 介護職員等ベースアップ等支援加算                       |
| ・虐待・身体拘束禁止について | 9月1日        | ユマニチュード技法                              |
|                | 3月2日        | 人権・権利擁護                                |
| ・事故防止について      | 8月25日       | 知りたいこと伝えたいこと                           |
|                | 3月22日       | 緊急時の対応「窒息時の対応について」                     |
| ・感染症予防について     | 6月29日       | 食中毒予防                                  |
|                | 10月27日      | 嘔吐時の対応について                             |
| ・防災研修（訓練）      | 6月9日        | 通報訓練・水消化器訓練                            |
|                | 6月23日       | 避難訓練（日中想定）                             |
|                | 9月29日       | 土砂災害訓練                                 |
|                | 11月13日      | 避難訓練（夜間想定）                             |
| ・褥瘡予防について      | 9月8日        | “つくらない”褥瘡ケア                            |
|                | 2月14日       | 褥瘡と栄養との関係・マット体験                        |
| ・看取りケアについて     | 8月18日       | 口腔ケア勉強会                                |
|                | 2月9日        | 看取り加算について・事例発表                         |
| ・尿路感染症プロジェクト   | 7月5日        | 尿路感染症対策                                |
|                | 2月21日       | ユニ・チャームオンラインセミナー事例発表                   |
| ・介護技術向上委員会     | 8月23日       | 考える力の向上                                |
|                | 2月14日       | ポジショニングについて・マットの選定                     |
| ・救急法講習会        | 2月22日、3月14日 | 心肺蘇生法、AEDの使い方<br>講師：雲南消防本部 飯南消防署 救急救命士 |

#### ⑤ その他

- ・在宅福祉部取り組み報告会参加 5月27日 「尿路感染症予防に対するチームとしての取り組み」
- ・介護施設における安全対策担当者養成研修 9月3日 1名
- ・中国地区老人福祉施設研修大会 事例発表 「誤嚥性肺炎予防に対する取り組み～職員の行動変容について～」 オンデマンド配信 期間：8月1日～10月31日

#### （5）家族会との連携

利用者にとり心安らぐ生活の場となるよう、施設と家族が互いに連携して、利用者に対する諸課題を検討し、ひとりひとりにあった処遇の向上に向けた取り組みを行った。

- ・家族会総会は新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。
- ・9月7日 役員会開催 任期満了に伴う副会長の交代により新体制で開催した。  
出席者： 会長 副会長 施設長 副施設長 主査  
内容：令和4年度事業計画、新型コロナウイルス感染対策状況、アンケート
- ・えがお通信発行：施設内のトピックスを毎月発行送付
- ・えがおの里新聞発行：行事写真を中心に施設内での様子について記載 4月、8月、10月、2月発行
- ・社協ホームページにY o u T u b eによる情報発信を継続した。

### 4 地域との交流・連携・貢献

#### （1）地域との交流

新型コロナウイルス感染予防のため、学校、地域ボランティアの施設内受け入れを休止した。

### ① 地域のボランティア

- ・ウエスや新聞ゴミ箱づくり、古着や生花などご自宅のものやご自宅で作業したもの  
を届けていただいた。 協力団体等 10 団体 地域の老人会 地域の方

### ② 地域との連携

地域福祉の拠点としての役割を果たすため、地域、関係機関との連携に努め、施設が  
有する技術について積極的に提供した。

- ① 掛合地区多職種連携意見交換会参加 計 3 回
- ② 地域リハビリテーション活動支援事業職員派遣 8 月 30 日

## 5 情報提供・相談・苦情への対応

### (1) 信頼関係の構築

利用者、家族との信頼関係を構築し、相談、要望、苦情に対し迅速丁寧に対応を行った。

- 職員の対応に関する苦情 1 件 面会に関する要望 2 件
- ケアについての要望 2 件 家族への報告に関する要望 1 件

### (2) 苦情相談窓口の設置

第 3 者委員会による苦情検討会の開催はなかった。

### (3) 情報発信

- ① 家族会用 えがおだより：毎月発行。えがおの里新聞：4 月、8 月、10 月、2 月発行
- ② 地域用 えがおの里新聞 自治会内で回覧された。

## 6 人材確保・育成・定着への取り組み

### (1) 福祉教育活動等への参加

市内小中学の職場体験など福祉教育活動への協力と雲南市内の高等学校との交流を図  
り、学生と教職員に対し福祉の仕事への理解を得られる事業を実施した。

その他、専門学校生の実習受入を行った。

#### ① 授業協力

- ・島根県立三刀屋高等学校「ジョブスタディ」3 名参加  
産業社会と人間 (1 年生) 7 月 7 日
- ・島根県立三刀屋高等学校掛合分校、好老センター「生活と福祉」全 9 回のうち 4 回  
6 月 20 日 9 月 21 日 10 月 3 日 11 月 9 日
- ・島根県立三刀屋高等学校掛合分校「企業ガイダンス」 2 名参加
- ・雲南市立掛合中学校  
「夢発見ウィーク」3 年生 2 名来所 10 月 12 日～14 日
- ・雲南市介護人材確保事業 大東高校 (1 年生) 3 月 9 日

#### ② 実習

- ・株式会社ホームケア一島根 初任者研修 1 名 9 月 27 日～10 月 21 日
- ・トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校 2 名 11 月 22 日～12 月 21 日

### (2) OJT の実施

新規採用職員等に対し OJT を実施して、仕事に必要な知識、技術、態度等を意図的、  
計画的、継続的な指導を行った。

OJT 対象者：2 年目職員 3 名

段階に応じた OJT を実施し、職員の介護技術の評価を実施している。

OJT の結果、対象者全員が到達すべき目標を達成していることを確認した。

### (3) エルダー制度の実施

エルダー制度により、相談役を置くことで職員が安心して働くことができる環境づく

りに努める。

エルダーは職場の先輩として後輩職員に対し、業務、生活面での心配や不安について相談にのり、若い職員が安心して働くことができる環境を整える仕組み。

対象者：1年目職員 2名

#### (4) 腰痛予防対策の取り組み

福祉用具等を導入やストレッチを実施して腰痛予防対策に取り組み人材の定着を図った。

#### (5) 処遇改善の実施

処遇改善計画に基づき適切に処遇改善を実施した。

#### (6) O F F J T の実施

若手職員を中心とした自主勉強会（ユースの会）を2回開催した。他者に対し想いや考えを伝える方法や、所感の書き方、研究や事例発表で作成する文章構成など勉強した。

### 7 年間行事報告

月	行 事	内 容
4月	お花見 みんなの日曜日	施設周辺にて お花見行事食（桜ちらし寿司） ココ壱番屋カレー
5月	花・野菜づくり みどりの日メニュー みんなの日曜日	玄関前花壇を利用した野菜づくり マグロの漬け丼 たいめいけんハヤシライス
6月	調理活動 みんなの日曜日	お好み焼き作り ココ壱番屋カレー
7月	七夕会 みんなの日曜日 おやつ作り	行事食（三色そうめん） たいめいけんハヤシライス パンケーキ作り
8月	お盆期間メニュー 花火大会 おやつ作り みんなの日曜日	ちらし寿司 そうめん 赤飯 天ぷら 噴き出し花火 盆団子作り、ハンドマッサージ たいめいけんハヤシライス
9月	敬老会 家族会役員会 みんなの日曜日	行事食（マグロの漬け丼）おやつバイキング ハンドマッサージ 事業報告・事業計画等 たいめいけんハヤシライス
10月	調理活動 みんなの日曜日	施設の畑で採れたかぼちゃの味噌汁作り ココ壱番屋カレー
11月	秋のメニュー みんなの日曜日	栗ご飯、さつまいもご飯 たいめいけんハヤシライス
12月	調理活動 クリスマス会 年末行事 みんなの日曜日 大晦日	鍋料理作り 行事食（チキンライス、ケーキ）、プレゼント ブリの解体ショー ココ壱番屋カレー 行事食（年越しそば）
1月	新年会 お正月期間メニュー みんなの日曜日	お茶会、お神酒、喜寿・米寿・白寿のお祝い お雑煮、おせち、卯年饅頭、赤飯、天ぷら たいめいけんハヤシライス
2月	節分行事 みんなの日曜日	鬼退治レクリエーション ココ壱番屋カレー
3月	ひな祭り お花見ドライブ みんなの日曜日	行事食（ひな祭り寿司、桜餅） 施設周辺、木次・三刀屋、吉田方面 たいめいけんハヤシライス

## 5 保育所受託運営事業部門

### ○ 部門ビジョン（目指す姿）

地域とともに健やかに育つ子どもを支えていくために

一人ひとりの最善の利益を尊重し 地域を活かした保育の実践を追求する

子育て支援部を目指します

- ▶社協らしい子育て支援の具現化に向けて、行政や地域等との協働のもと、地域ニーズを反映した「受託事業の機能充実」に取り組みます。
- ▶家族、地域、世界の宝である子どもたちが、健やかに育つために、地域の皆様と共に歩む、高品質な保育サービスを実践します。

### 【総評】

成果 ・職員の専門性を活かした保育実践ができた。

・コロナ禍にあっても、保護者・学校・地域との連携を図ることができた。

課題 ・三刀屋保育所の老朽、狭隘の解消に向けた対応

・入所児童数減少への対応

### ＜総括的事項＞

三刀屋保育所は、定員を上回る児童数を確保できること等から安定した経営を行うことができました。

また、掛合保育所の空き教室にこれまで掛合体育館内にあった子育て支援センターを移転し、就園前児童の保育所体験や子育てに関する相談など保育所と連携した事業を展開することができました。

### 1) 雲南市立三刀屋保育所保育業務

#### 保育の理念、保育目標、経営方針

##### 1 保育理念

地域とともに健やかに

～家族の子・地域の子・世界の子をめざして～

##### 2 保育目標

たくましく心豊かな子どもを育む

##### 3 児童数

在籍児童 定員 120 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	3	4	5	6	7	7	8	11	13	13	15	15
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
2歳児	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
3歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
4歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24
5歳児	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
計	121	122	124	125	126	126	127	130	132	131	133	133

入所率 令和4年度 (4月1日現在) 101% (3月31日現在) 111%

#### 4 職員の職種、職員数（3月31日現在）

##### ○ 三刀屋保育所

職員 29名

- ・所長 1名
- ・主任保育士 1名
- ・保育士 19名（内育児休業 1名）（内特別支援専任 3名）
- ・看護師 2名
- ・栄養士 2名
- ・調理師 2名
- ・事務員 2名

嘱託医 1名、嘱託歯科医 1名

##### ○ みとや病後児保育室「たんぽぽ」

職員 2名

- ・保育士 1名
- ・看護師 1名

#### 5 健康及び安全

看護師及び栄養士の専門性を生かした児童の健康増進や安全に対する取り組みを進めた。

##### （1）健康支援

- ・保護者からの児童の健康観察カードの記載、提出を受けて毎日の健康管理の徹底
- ・子どもへの保健指導の実施（うがい・手洗い・はみがき）  
その他、時季や子どもの様子に応じた健康指導  
マスクの付け方

4・5歳児(4/6)

手洗い指導 5歳児(4/13 4/14 10/6 10/7)

4歳児(4/15 10/19)

3歳児(4/18 10/17)

2歳児(6/13 10/18)

プライベートゾーン指導

5歳児(5/16 5/19)

4歳児(5/20)

3歳児(5/17)

虫歯予防教室

5歳児(6/7 6/8)

4歳児(6/9)

はみがき指導

5歳児(11/10 11/14)

4歳児(11/15)

3歳児(11/14)

## 熱中症防止指導

5歳児(7/4 7/6)

4歳児(7/6)

3歳児(7/7)

風邪の予防 5歳児(12/8 12/9) 4歳児(12/12) 3歳児(12/23)

早寝早起き朝ごはん指導

5歳児(1/11 1/12) 4歳児(1/13) 3歳児(1/16)

鼻のかみ方 2歳児(1/30)

進級に向かって 5歳児(3/3) 4歳児(3/8) 3歳児(3/6)

尿検査 3歳児～5歳児(5/23)

視力検査 5歳児(8/5)

聴力検査 4・5歳児(8/19)

内科健診 0歳児～2歳児(9/8 3/7) 3歳児～5歳児(10/25 3/7) ※3/7は5歳児は行わない。

・看護師により出欠状況、感染症発生状況等の一早い情報提供(玄関の掲示板・保健だより)及び健康相談を行った。

・保育所内の衛生管理の徹底(各保育室の手洗い場の確認)

・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策

保育所独自のマニュアルに沿って行った。

入室する際手指消毒を行う。

児童の手洗いの徹底とうがいの実施による感染症予防を行う。

施設内の次亜塩素酸ナトリウムによる毎日1回の清掃及び日常的な清掃を行う。

各部屋内の清掃、消毒の徹底

子ども・職員が触れるところを重点に、アルコール消毒を行う。

換気を定期的に行う。

玩具等の消毒(朝・夕 消毒)

・体力づくり活動として、所外指導員の支援による三刀屋健康福祉センターポールを利用した5歳児水泳教室を6回行った。

・日常の生活の中に運動プログラムを意識した実践を取り入れ、体力増進を図った。

・わくわくうんなんピックに参加(10/17・10/19)

## (2) 安全管理

・危機管理体制の確立とマニュアルの会得。

・災害時を想定した月1回の避難訓練を実施した。訓練の方法についてマンネリ化を避け、熟慮した。

不審者対応訓練…雲南警察署対応

避難訓練(年1回)…雲南消防対応

・SIDS、AEDについての研修訓練を行った。(11/7 11/9)

・緊急時を想定し、一斉メール配信、メール確認訓練。

・毎月初めの所内安全点検の実施とヒヤリハットの実施による安全対策の推進と職員の意識向上を図った。

・非常災害対策としての備蓄品の数量や保存年限を確認

### (3) 食育の推進

- ・地産地消を主とした安心安全な食材を提供
- ・栄養士、看護師及び保育士の連携によるアレルギー食への対応を行った。
- ・野菜栽培活動や、地域の名人さんと調理実習をするなどして、食への関心を高めた。
- ・栄養士等による月1回の食育のつどいを実施(3歳児以上)
  - 4月 保育所の給食になれる
  - 5月 早寝早起き朝ごはんの大切さを知る
  - 6月 よく噛んで食べることを知る
  - 7月 旬の野菜を知る
  - 8月 夏バテしない体について知る
  - 9月 食べ物とうんちのかかわりを知る
  - 10月 魚について知る。
  - 11月 3つの栄養素について知る
  - 12月 食事のマナーについて知る
  - 1月 スプーンや箸の正しい持ち方について知る
  - 2月 おやつについて知る
  - 3月 体の成長と食べ物との関わりを知る
- ・保護者に対する食育指導や、食育相談、レシピの配布、アンケート実施などを通じて家庭と保育所の連携に努めた。
- ・各学年 季節に応じたクッキング
  - 4月 キヌサヤスジ取り(5歳児)
  - 4月 スナップエンドウスジ取り(4歳児)
  - 5月 グリーンピース豆だし(4歳児)
  - 5月 スナップエンドウ(3歳児)
  - 6月 キヌサヤスジ取り そら豆だし(5歳児)
  - 7月 なすとピーマン炒め(5歳児)
  - 10月 芋の蔓の炒め(2歳児)
  - 12月 さつま芋炒め(2歳児)

## 6 子育て支援

- ・地域の子育て支援として、保育所一般開放日における個人面談、育児相談を行った。
- ・子育て講演会は、新型コロナ感染拡大防止のため中止した。
- ・保育所だより、クラスだより、給食・保健だよりなど専門性を活かした情報の発信に努めた。

### ・延長保育事業

保育所において、保護者の都合等により保育時間内に迎えに来られない場合に時間を延長して保育する事業

4月～3月の利用延数 65人

## 7 保護者との連携

- ・保護者の代表である、保護者運営委員と共に行事について協議、実践、反省など一連の流れを踏んで信頼関係の構築に努めた。(親子遠足、運動会、夏祭りなど)
- ・ボランティアとしての参加(絵本の読み語り、畑の名人さん、半日保育士、もちつきなど)を募った。

もちつきボランティア6名 半日保育士3名 焼き芋ボランティア3名

- ・クラス懇談会の実施 5歳児(6/2) 4歳児(6/1) 3歳児(5/26)  
2歳児(5/25) 1歳児(5/27)
- ・のびのび(3~5歳児)の個人面談の実施  
5歳児 (7月11日~15日) (11月14日~18日)  
4歳児 (10月24日~28日)  
3歳児 (1月23日~27日)
- ・すくすく(0~2歳児)の個人面談の実施  
0歳児~2歳児(11月28日~12月2日)

## 8 職員同士の連携と質の向上

『職員同士・クラス間の連携と支え合う保育所』を意識した保育所運営を目指した。

- ・職員同士の連携のため、職員会議の在り方の再構築  
企画会(代表者会)、チーフ会(主担会)、のびのび部会(3歳~5歳児)  
すくすく部会(0歳児~2歳児)、給食保健部会…月1回  
全体職員会…年3回  
安全対策部会
- ・職員の資質向上のため、研修計画に基づく研修の実施及び研修の機会を確保した。  
・キャリアアップ研修の受講  
・セルフキャリアドッグの受講  
・キャリアパスの受講  
・保育士全員が年1回は、クラス研修会に参加  
・指導講師を招いた所内研修・保育公開を実施(2回)  
・県、市、社協等主催の所外研修会へ参加

## 9 病時保育事業（病後児対応型）の実施

施設定員2名

- ・児童が病気の「回復期」であり、かつ集団保育が困難な時期一時的に保育を行った。
  - ・病後児保育の周知のための取り組み、大東病後児、病児保育との連携のための取り組みを行った。
- 4月~3月までの利用 延87名

## 10 保育に関する評価

提供する保育の質の評価を行い、その改善に取り組んだ。

[自己評価]

- ・職員の目標設定のための管理職による個人面接と職員の自己評価(年2回)を実施し、保育の振り返りと自己目標を明確にした。(7月・2月実施)

[保育所評価]

- ・保育所内で保育所運営及び保育等について振り返り、評価を実施した。
- ・全体の課題を明確にし、改善へ向けた取り組みを行った。
- ・市保育所運営協議会による保護者アンケート実施
- ・県実施指導監査(書面監査) (10月)

## 2) 雲南市立掛合保育所保育業務

### 1 保育理念

～地域とともに健やかに～

- ☆ 入所児童及び地域の子どもの健全な人間育成を図るため、児童家庭福祉の理念に基づき、一人ひとりの最善の利益を尊重する。
- ☆ 家庭や地域と共に、自然を愛し、親しみ、たくましい身体と豊かな心を育み、未来を切り拓く意欲の持てる子どもの発達を促す。

### 2 保育目標

- ☆ 心身ともにたくましい子
- ☆ 心豊かで思いやりのある子
- ☆ 自分らしさを發揮し、意欲的にあそぶ子

### 3 児童数

在籍児童 定員 80 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
1歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
2歳児	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
3歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
4歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
5歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
計	64	64	64	64	64	64	64	64	64	65	65	65

月平均 65 人

3月入所率 82%

### 4 職員の職種、職員数（3月31日現在）

掛合保育所

職員 22 名

- ・所長 1名
- ・主任保育士 1名
- ・保育士 13名（内育児休業1名）
- ・看護師 1名
- ・栄養士 1名
- ・調理師 2名
- ・事務員 1名
- ・一時預かり担当保育士 2名（非常勤）

掛合保育所病後児保育室（体調不良児対応型）…保育士 1名

掛合ファミリーサポートセンター … アドバイザー 1名

掛合子育て支援センター … 子育て支援員 2名

嘱託医 1名、嘱託歯科医 1名

### 5 健康及び安全

#### (1) 健康支援

- ・看護師の専門性を生かした健康管理を図るとともに、保健計画に基づく児童の健康の保持や増進に努めた。
- ・嘱託医による健診 歯科健診(9/29)
- ・感染症予防のための衛生管理(随時) 尿検査(5/23)

- ・健康指導 聴力検査：耳について(6/15)・視力検査：目について(6/16)  
生活習慣について(6/17)・熱中症について(8/1)  
個々の成長及び健康管理(毎月)  
手洗い・うがい・歯磨き指導(随時)
- ・元気アップ運動(生活リズム作り)(6月・11月・2月)  
\*四校連携による生活リズム調査
- ・運動プログラムによる体力の増進  
\*運動遊び専門指導(9/26・11/7・12/23) \*活動量計装着(10/26～11/2)  
\*園外保育・運動遊び(随時) \*わくわくうんなんピック(9/15)
- ・保護者の理解を得ながら感染症等の予防対策の徹底を図っている。  
\*新型コロナ対策
  - ・マスクの着用・手指消毒・健康チェック
  - ・玄関保護者受け入れ・健康チェック・業者保護者健康チェック
  - ・換気・室内消毒・三密を防ぐ生活
- ・ほけんニュース・掲示板によるタイムリーな情報提供
- ・健康についての相談(随時)

## (2) 安全管理

- ・事故発生時の対応・防災対策・安全管理等に関するマニュアルを全職員が熟知し、危機的状況が発生した場合には、それに沿って体制が取れるよう取り組んだ。
- ・所内外の安全点検・危険個所の改善・災害発生時の訓練等を行うなど安全対策に努めた。

災害時想定の避難訓練(毎月)

消防署による避難、消火指導(11/24)

不審者対応訓練(9/14)・引き渡し訓練(10/14)

安全点検(毎月)・ヒヤリハットによる安全対策の重視(随時)

## (3) 食育の推進

- ・食育計画に基づき、栄養士の専門性を生かした食を営む力の育成に努めるとともに、食物アレルギー等一人一人の児童に対して適切な対応に努めた。
- ・地域の皆さんの協力を得ながら、所児による野菜栽培活動等を通した食育の強化を図った。
  - ・給食便り(毎月)・展示食(毎日)
  - ・試食会等による食に関する情報提供(毎月)
  - ・離乳食・アレルギー食の保護者面接(随時)
  - ・食育相談(随時)・食育指導・クッキング
- \*箸の持ち方や食事の仕方、姿勢等意識した指導(6月・随時)
- \*夏野菜・冬野菜の栽培収穫(5月～12月)
  - 年齢に応じた野菜つくりやクッキング体験
  - ゆすらうめジュース(6月)・さくらんぼジュース・ジャム(5月)
  - 枝豆ご飯(8月)夏野菜クッキング(8月)野菜焼き(随時)
  - 冬野菜クッキング(11月～3月)味噌汁クッキング(1月～3月)
  - カレーライス・みそ作り(2月)・ご飯炊き(1月～3月)

## 6 子育て支援

### (1) 子育て支援センター

地域の子育て家庭の保護者や児童等に対し、地域全体で子育てを支援する基盤を形成することにより育児支援を図った。

また、7月には掛合体育館内から掛合保育所の空き教室に移転した。

- ・保育所開放・試食会(5・6・7・9・10・11・12・1・2月)
- ・子育て相談(毎月)・リフレッシュ教室(6/9・8/26・11/11)
- ・誕生会(5・7・9・12・3月)・リサイクル会(6・10・2月)・栄養教室(8/8)
- ・お話の日(毎月)・お楽しみ交流会 ユニットさくら組コンサート(3月)

\*対象年齢に応じた内容、保護者の要望に沿った事業の実施

\*専門機関と連携し、子育て相談への対応 支援連絡会(3月)

\*保育所と連携した、保育所体験や入所前相談のスムーズな実施

利用者組数 357組 (前年度 555組)

### (2) ファミリーサポートセンター

育児の援助を行いたい者と育児の援助を受けたい者とを組織化し、相互援助活動を行うことにより、市民及び市内の労働者が仕事と育児を両立し、安心して働くことができるような環境づくりや子育て支援機能の充実を図った。

- ・送迎サポート、預かりサポート(随時) ・ファミサポ便り発行(5月)
- ・幼児安全法研修(7月)・支援連絡会(3月)
- ・チャイルドシート貸し出し(2件)

利用者回数 63回 (前年度 51回)

### (3) 一時預かり事業

家庭内の子育ての孤立化解消等の支援と、保護者の都合により子育てが困難な場合に一時的に保育所で預かる事業

利用延数 0人 (前年度 12人)

### (4) 延長保育事業

保育所において、保護者の都合等により保育時間内に迎えに来られない場合に時間を延長して保育する事業

利用延数 84人 (前年度 64人)

### (5) 病児保育(体調不良児対応型)事業

病気の回復期にある乳幼児を一時的に預かり、保護者の子育てと就労の両立を支援する事業

利用延数 病後児保育 8人 (前年度 14人)

体調不良児 67人 (前年度 277人)

## 7 保護者との連携

保護者との密接な連携をとり、保育の内容等につき理解及び協力を得るよう、信頼関係を深めていくよう努めた。

- ・親子遠足(10/21)・夏祭り(7/23)・運動会(10/8)・一日保育士(随時)
- ・クラス懇談(8/2、8/5、9/29)・保育参加・研修(6/24)・発表会(12/10)
- ・就学前保育参観・懇談会(2/7)・城山散歩(11/14)・個人面談(2月)
- ・環境整備(9/17・3/10)・修了式(3/16)・保護者会(6/17・1/19・3/3)

## 8 職員の資質向上

職員の資質向上のため、研修計画に基づく研修の実施及び研修の機会の確保に努めた。

- ・全職員の自己評価を実施し、能力開発や研修目標を定めて、職員の資質向上に努めた。また、係制度を充実させ、業務分担による職員の役割の明確化、業務遂行能力の向上を図った。
- ・職員会議を月2回以上開催し、全職員の意思統一を図った。
- ・所内研修　　公開保育(6/9・12/16)講師：のぞみ保育設計研究所　野津道代氏  
所内語る会　事例・期案・指導案の作成について  
(8/25・9/8・9/15・1/12・2/14)
- ・近隣園・所との合同研修会(6/10・6/23・6/28・11/15)
- ・県研修(6/30・8/22・9/7)・雲南保協公開保育(10/18・10/19)
- ・市研修等の研修機会の確保　・療育研修(11/11)  
(5/11・5/25・6/29・8/24・9/22)
- ・キャリアアップ研修の受講(8/17～19・9/26～28　障がい児・1/31～2/2　食育アレルギー・1/16～18乳児・2/6～8子育て、保護者支援)
- ・県社協研修(10/17・11/14・12/8・12/12)　・人権研修(8/4)
- ・巡回訪問：さくら教室(6/24・11/8)
- ・ファミサポアドバイザー研修(11/29)

## 9 小学校との連携

小学校等関係機関と十分な連携を図り情報交換や研修会等を積極的に行い、就学に向けてスムーズに移行できるよう配慮した。

- ・保小連絡会(6/7・8/24・11/7・11/22・1/6・2/7)
- ・保育所訪問(8/24)・町探検(10/18)・支援連絡会(9/16・12/9)
- ・校長、所長連絡会(毎月)

## 10 地域との連携

掛合の子ども達を地域全体で見守り、ふるさとに愛着を持つ子ども達を育てるために家庭・地域・学校で連携を図った。

- ・あいさつ運動：にこにこデー(毎月)・畑耕作協力(松笠下組農事組合)
- ・小田地区稻刈り体験(9/30)　・ごみ0大作戦(6/16)
- ・地域散歩(5・6・9・10・11月)…地域の方・掛合交番の見守り  
　　松笠(明泉寺11/15)入間(神社、長栄寺10/21)、波多(雪遊び2/10)
- ・掛合(城山・野球場・西側方面・小学校裏山・緑ヶ丘付近・佐中ピオトープ)
- ・川遊び(6～8月)・鮎・鰻・ヤマメの放流(5・6月)・鮎のつかみ取り(8/9)
- ・三刀屋保育所交流会(4/7・6/8・11/11)
- ・吉田保育所交流会(6/27・11/16・1/27)・ふれあい交流会(11/17)
- ・掛合中3年職場体験(9/21)
- ・掛合中夢発見(10/12～14)・掛合分校保育体験(10/17・12/13・1/16)
- ・掛合町子どもを育てる会(5/24・11/15・2/22)

## 11 保育に関する評価

- ・保育所内で全職員による保育の質に関する振り返りによる評価を実施した。  
　　自己評価・面接(7・2月)
- ・県実施指導監査　(9月)　指摘事項なし

## 6 地域包括支援センター事業部門

### ○ 部門ビジョン（目指す姿）

地域でその人らしく安心して生活できるために

一人ひとりに必要な包括的支援を多職種連携で実践する

地域包括ケア推進部を目指します

### ○ 部門運営方針

地域包括支援センターは、地域住民の保健医療の向上・福祉の増進を包括的に支援することを目的に、地域において一体的に実施する中核的機関として位置づけられています。設置責任主体である雲南市と共に公益性・地域性・協働性を基本的視点に適正な運営を図っていきます。

加えて、業務を円滑に進めるために必要な専門職の確保に向け積極的に取り組むとともに職員の資質向上に努めます。

#### 【総評】

**成果** ・個別支援型・エリア型地域ケア会議等を重ね、多職種連携、地域とのネットワーク形成を深めた。  
・住民への周知度を上げるため、パンフレットの配布や「地域の福祉」で広報し、関係機関からも協力を得られて相談に繋がっている。

**課題** ・介護支援専門員の確保  
・ケア会議、研修の充実による職員の専門性向上

### ＜業務推進の指針＞

#### 1 総合相談支援業務

##### (1) 実態把握

地域の高齢者的心身状況や家庭環境等についての実態把握に努め、地域に存在するニーズに早期対応できるよう取り組んだ。

##### (2) 総合相談業務

地域において安心して相談できる拠点としての役割を果たすため、関係機関との連携のもと、様々な相談内容に総合的に対応できる体制づくりに努めた。

##### (3) ネットワーク構築業務

- ・地域の社会資源やニーズを把握し、相談時に適切な情報を提供、効果的な相談活動を進めた。
- ・地域のネットワークを通じて高齢者の実態把握を行い、支援が必要な高齢者に対して各専門職がチームで支援した。
- ・保健・医療・福祉サービスなどのネットワークを有効に活用し適切な支援に努めた。
- ・社協内では、地域福祉部門との連携により強みを発揮した。
- ・広報紙やパンフレットなどでセンター業務の周知を行い、地域での認知度を高めた。

○ 総合相談の件数 延べ件数 ( ) = 前年同期の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
本所包括	286 (333)	263 (302)	352 (357)	247 (212)	334 (221)	262 (255)	1,744 (1,680)
大東包括	172 (173)	213 (171)	195 (184)	176 (143)	199 (178)	187 (204)	1,142 (1,053)
合計	458 (506)	476 (473)	547 (541)	423 (355)	533 (399)	449 (459)	2,886 (2,733)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本所包括	235 (362)	268 (342)	191 (358)	237 (318)	267 (185)	230 (303)	3,172 (3,548)
大東包括	209 (225)	165 (190)	120 (173)	178 (186)	183 (239)	172 (194)	2,169 (2,260)
合計	444 (587)	433 (532)	311 (531)	415 (504)	450 (424)	402 (497)	5,341 (5,808)

○ 総合相談の対応方法 (数字は合計件数)

対応方法	件 数	総合相談における割合
訪問	1,258	23.6%
電話	3,135	58.7%
来所	344	6.4%
調整	604	11.3%
合計	5,341	100.0%

○ 総合相談の内容

内 容	件 数
介護保険	2,646
認知症・精神疾患	563
保健・医療	400
在宅福祉サービス	123
生活相談	177
家族問題	238
訪問型介護予防	16
介護予防	18
その他	138
合計	4,319

◇ 新規相談の対応状況

○ 新規相談件数（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
件数	73 (74)	64 (65)	71 (54)	60 (37)	50 (50)	53 (58)	371 (338)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	49 (55)	46 (64)	44 (68)	62 (51)	57 (36)	57 (58)	686 (670)

○ 新規相談内容

相談種別	件数（重複あり）
介護保険	488
在宅福祉サービス	8
保健医療	34
認知・精神関係	117
生活相談（金銭財産、墓、犬ネコ、ごみ）	15
家族問題	18
訪問型介護予防（サービスなし定期訪問）	0
介護予防事業	1
緩和事業	53
退院支援	66
その他	20
合 計	820

○ 相談者内訳

相談者	件 数	割 合
親族	277	41.4%
本人	35	5.1%
近所友人	10	1.5%
関係機関	359	52.3%
匿名	5	0.7%
合 計	686	100.0%

## 2 権利擁護業務

### (1) 権利擁護

実態把握や総合相談の過程で、権利擁護の観点から支援が必要と判断した場合は、雲南市に連絡し、関係機関等との調整により対応した。

- ・成年後見制度の活用
- ・老人福祉施設等への措置
- ・高齢者虐待（疑い含む）への対応
- ・困難事例への対応
- ・消費者被害防止

○ 権利擁護にかかる相談 146 件

相談内容	件 数
成年後見・日常生活自立支援	54 (78)
虐待相談	92 (139)
合 計	146 (217)

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

(1) 包括的・継続的なケアマネジメント体制の構築

- ・施設・在宅を通じた地域における包括的・継続的なケアを実施するため、医療機関を含めた関係機関との連携を構築し、地域の介護支援専門員と関係機関との連携を支援した。
- ・地域の介護支援専門員が介護保険サービス以外の様々な社会資源を活用できるよう地域との連携体制の整備に努めた。

(2) 介護支援専門員等に対する支援

- ① 日常的な個別指導・相談  
介護支援専門員等の業務の実施に関し個別指導や相談への対応を行った。
- ② 事例検討会・研修会等の実施による支援  
介護支援専門員への情報提供や事例検討会、研修会等を実施した。
- ③ 支援困難事例等への指導・助言  
地域の介護支援専門員が抱える困難事例について、具体的支援方針を検討し、指導・助言を行うよう努めた。
- ④ 地域における介護支援専門員のネットワークの活用  
地域の介護支援専門員が、日常的に円滑な業務が実施されるよう、介護支援専門員のネットワークを活用した。

○ 包括的継続的支援・地域ネットワークにかかる相談 95 件

相談内容	件 数
ケアマネ支援	93 (70)
地域づくり	2 (0)
合 計	95 (70)

○ ケアマネ支援の内容

相談内容	件数(重複あり)
介護	57
医療	9
経済	8
生活支援	4
家族関係	36
苦情対応	6
身上監護	5
その他 (施設探し)	25
合 計	150

○ ケアプラン確認数 903 件

#### 4 介護予防ケアマネジメント業務

- 要支援及び介護予防・生活支援サービス事業対象者に対して、介護予防及び日常生活支援を目的としてケアマネジメントを実施した。
- 実施に際しては、高齢者自身が地域において自立した生活を送ることができるよう支援した。
- 指定居宅介護支援事業所に委託した場合も責任を持って関与するよう努めた。

#### ○ 介護予防ケアマネジメント業務・指定介護予防支援業務実績 R5年3月末現在

No.	委託先	事業主体	実件数	延件数
1	居宅介護支援事業所おおぎ	雲南市社会福祉協議会	22 (21)	192 (188)
2	ケアプランほっと	NPO法人 ほっと大東	11 (7)	93 (63)
3	かも福祉会居宅介護支援事業所	社会福祉法人 かも福祉会	41 (31)	379 (257)
4	木次居宅介護支援事業所	社会福祉法人 きすき福祉会	5 (7)	46 (53)
5	ケアセンターきすき居宅介護支援事業所	医療法人 同仁会	8 (7)	77 (67)
6	ケアプランあいねっと	有限会社 あいねっときすき	9 (8)	97 (82)
7	介護相談やわらぎ	NPO法人 やわらぎ	3 (7)	45 (61)
8	居宅介護支援事業所みとや	雲南市社会福祉協議会	37 (35)	404 (355)
9	ゆりさわ居宅介護支援事業所	株式会社 アミーゴ島根	3 (5)	19 (36)
10	居宅介護支援事業所未来の華	NPO法人 未来の華	6 (6)	52 (49)
11	居宅介護支援事業所かけや	雲南市社会福祉協議会	14 (16)	110 (134)
12	訪問看護ステーション すずらん	医療法人 古沢整形外科医院	1 (1)	12 (12)
13	こころね居宅介護支援事業所渡橋店	株式会社 シニアリビング・ネクスト	2 (1)	24 (19)
14	こころね居宅介護支援事業所	医療法人 嶺和会	2 (1)	19 (3)
15	ケアプランよしだ	社会福祉法人 よしだ福祉会	2 (3)	14 (10)
16	奥出雲居宅介護支援事業所	有限会社 ブルーム	8 (0)	29 (0)
17	心暖居宅介護支援事業所	株式会社 ユニティー	0 (1)	0 (5)
18	ニチイケアセンター出雲	株式会社 ニチイ学館	0 (2)	0 (8)
19	居宅介護支援事業所 純	社会福祉法人 陽恵福祉会	0 (1)	0 (3)
計	委託実績 No.1～19 合計 ⑧		174 (160)	1,612 (1,405)
	雲南市地域包括支援センター担当 ⑨		836 (854)	7,829 (8,089)
	実績合計 ⑧+⑨		1,010 (895)	9,441 (9,494)

- ◇ 介護予防ケアマネジメントB
- 延件数 3,477件 (前年同期 3,443件)
  - 事業所数 4事業所 (サロンほっと、ひかりサロン雲南、介護予防はつらつ、新シルバー大学)

## 5 地域ケア会議の開催及び参画

- ・個別課題の解決、地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の発見、地域づくりと資源開発、政策形成に関する5つの機能を果たすため、地域ケア会議を開催した。

### (1) 個別支援型地域ケア会議（主催：地域包括支援センター）

開催回数 24回

参加者延べ人数 153名

参加者 本人、親族、居宅介護支援事業所、サービス事業所、社会福祉協議会、福祉事務所、民生委員、自治会長、保健所、包括職員等

### (2) 自立支援型地域ケア会議（主催：雲南市）

開催回数 2回

包括支援センターより提出事例 1事例

参加職員延べ人数 4名

## 6 その他 関係機関等との連携等

新型コロナ感染拡大防止の観点により各種会議が縮小され、書面協議による報告も行われた。

### (1) 運営推進会議への参画

#### ○ 地域密着型 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

事業所名	開催日
老人グループホーム とぎしの家	9月26日・11月1日・3月9日 3月22日
グループホーム 雲水屋	5月18日・7月20日・9月21日
グループホーム やわらぎ	5月26日・7月19日・9月8日 11月17日・1月26日

#### ○ 地域密着型 認知症対応型通所介護

事業所名	開催日
デイサービス ゆけむりの里	10月31日・3月31日
デイサービス やわらぎ	9月16日
デイサービス あおぞらの家	9月26日・3月9日

#### ○ 地域密着型 小規模多機能型居宅介護

事業所名	開催日
小規模多機能型居宅介護事業所 大東ゆりさわ	5月25日・7月27日・10月13日 11月22日・1月25日・3月22日
小規模多機能型居宅介護事業所 桜花	5月27日・7月25日・9月30日 11月25日・1月27日
小規模多機能型居宅介護事業所 ふかのの里	6月30日・7月31日・1月24日 3月20日

小規模多機能型居宅介護事業所ふれあいセンター	10月26日・3月27日
小規模多機能型居宅介護事業所 雲水舎	5月18日・7月20日・9月21日 11月16日・1月25日・3月15日
サンキウエルビィ(株)小規模多機能センター	11月30日・1月31日・3月29日

○ 地域密着型 看護小規模多機能型居宅介護

事業所名	開催日
どちのみ	6月23日・8月29日・9月20日 11月4日・1月24日・3月15日

○ 地域密着型 通所介護（小規模）

事業所名	開催日
ケアポートよしだ	9月30日・3月16日
カルチャーセンターあおぞら	9月26日
デイサービスセンターうしお湯治村	9月22日

(2) 職員の資質向上を目的とした各種研修会の受講

新型コロナ感染拡大防止の観点から、参加者人数の制限やオンライン研修を受講した。

- ・令和4年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（チームリーダーコース）1名  
5月18日、5月19日
- ・令和4年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（管理職員コース）1名  
9月21日、9月22日
- ・相談援助職への暴力・ハラスメント その理解・予防・対処 4名 9月24日
- ・令和4年度雲南圏域ゲートキーパー養成研修会 1名 9月28日
- ・令和4年度地域包括支援センター職員等研修会 2名 12月13日
- ・令和4年度雲南圏域精神保健福祉関係者等研修会 1名 1月19日
- ・介護支援専門員ケアプラン点検基礎研修 1名 3月7日
- ・コミュニティソーシャルワーク前期 1名
- ・雲南市社協生活支援相談センター、権利擁護センター、地域包括支援センター連絡会  
4月21日、5月19日、6月16日、7月21日
- ・社会福祉協議会地域福祉部との学び合い会議 7名 5月26日

(3) 実習生の受け入れによる専門職人材の育成支援

- ・令和4年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル統合演習Ⅱ 1名 8月3日

(4) 各種関係会議等への参画

- ・島根県地域包括支援センター連絡会役員会 6月29日
- ・雲南市地域包括支援センター・雲南市連絡会 4月20日、6月15日、8月17日、  
10月19日、12月21日、2月15日
- ・雲南市ひきこもり支援ネットワーク会議 11月1日

